

特産果樹病害虫防除指針

目 次

特産果樹改正事項一覧表	2
1 ぶどう	3
2 おうとう	13
3 もも	18
4 なし	24
5 うめ・あんず	31
6 すもも(日本すもも・プルーン)	35
7 ネクタリン	41
8 ブルーベリー	46
9 くろふさすぐり(カシス)	48
10 かき	49
11 その他(果樹全般)	50

防除方法に記載された農薬には、それぞれのRACコードを()書きで示していますので、農薬を選択する際の参考としてください。

特産果樹

特産果樹改正事項一覧表

作物名	病害虫名	改正事項	改正内容
ぶどう	黒とう病、 褐斑病、 晩腐病	掲載農薬一覧 病害虫名及び防除時期 防除方法	ベフラン液剤25を削除
	黒とう病、 褐斑病、 晩腐病、 灰色かび病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項 薬害	ポリバリン水和剤を削除
	黒とう病、 灰色かび病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	シャインマスカットでは「新梢伸長期(約15cm)」及び「新梢伸長期(約30cm)」、キャンベル・アーリーとスチューベンでは「新梢伸長期(約20cm)」及び「開花10日前頃」にペランティーフロアブルを採用
	黒とう病、 べと病、 灰色かび病	防除方法 参考及び注意事項 農薬節減に係る情報	「落花直後」にアリエッティC水和剤を追加
おうとう	カメムシ類	掲載農薬一覧 防除方法	「満開25日後頃」にダントツ水溶剤を採用
	オウトウショウジョウバエ	掲載農薬一覧・欄外 防除方法 農薬節減に係る情報 参考及び注意事項	スカウトフロアブルを削除
	ハダニ類	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項 薬害	ダニサラバフロアブル、ダニゲッターフロアブル、スターマイトフロアブルを削除
もも、 ネクタリン	せん孔細菌病	薬害 参考及び注意事項	「I C ジンク水和剤は高温時の散布で葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので注意する。」を追加
	シンクイムシ類、 モモハモグリガ	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	サイアノックス水和剤及びスカウトフロアブルを削除
	シンクイムシ類、 クワコナカイガラムシ	掲載農薬一覧・欄外 防除方法	「落花30日後頃」にオリオン水和剤40を採用
	モモハモグリガ	防除方法 参考及び注意事項	「9月上旬」にイカズチWDGを追加
なし	黒星病、 黒斑病、 輪紋病	病害虫名及び防除時期 掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフキノン水和剤を削除 日本なしの「8月上旬」、「8月中旬」、「8月下旬」、西洋なしの「8月最下旬」、「9月中旬」からオキシラン水和剤を削除
	黒星病	防除方法 参考及び注意事項	収穫前日数に関する注意事項の追加
	輪紋病	防除方法 参考及び注意事項	収穫前日数に関する注意事項の追加
	シンクイムシ類、 カメムシ類	掲載農薬一覧 病害虫名及び防除時期 防除方法 農薬節減に係る情報 参考及び注意事項	スカウトフロアブルを削除 「7月上旬」及び「7月下旬」にイカズチWDGを追加
	シンクイムシ類、 ハマキムシ類	掲載農薬一覧 防除方法	「7月上旬」にエクシレルSEを採用
	アブラムシ類	防除方法 農薬節減に係る情報 参考及び注意事項	ダイアジノン水和剤34に関する農薬節減のための注意事項を記載
うめ・あんず	アブラムシ類	掲載農薬一覧 防除方法 農薬節減に係る情報 参考及び注意事項	スカウトフロアブルを削除
すもも	アブラムシ類、 シンクイムシ類	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	サイアノックス水和剤及びスカウトフロアブルを削除
	シンクイムシ類	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ダイアジノン水和剤34を追加 「7月中旬」にジノテフラン水溶剤を追加 「9月上旬」にイカズチWDGを追加
ブルーベリー	ケムシ類	掲載農薬一覧・欄外 防除方法	サイアノックス水和剤を削除
	オウトウショウジョウバエ	掲載農薬一覧 防除方法	テッパン液剤を採用 スカウトフロアブルを削除
くろふさすぐり (カシス)	スグリコスカシバ	掲載農薬・欄外 病害虫名及び防除時期 防除方法 参考及び注意事項	バイオセーフを削除
かき	カキクダアザミウマ	掲載農薬一覧・欄外 防除方法	スカウトフロアブルを削除

1 ぶどう

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	・希 使用 倍数 数	適用病害虫名												
					黒 とう 病	褐 斑 病	晩 腐 病	灰 色 か び 病	さ び 病	べ と 病	ブ ド ウ ト ラ カ ミ キ リ	フ タ テ ン ヒ メ ヨ コ バ イ	コ ウ モ リ ガ	コ ガ ネ ム シ 類	チ ヤ ノ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ハ ダ ニ 類	ツ マ グ ロ ア オ カ ス ミ カ メ
パスポート顆粒水和剤	M05		T P N	250	○		○										
デランフロアブル	M09		ジチアノン	200	○		○										
ベンレート水和剤	1		ベノミル	200	○		○										
				3000			○										
ゲッター水和剤	10		ジエトフェンカルブ	1500				○									
	1		チオファネートメチル														
フルーツセイバー	7		ペンチオビラド	1500	○	○		○									
フルピカフロアブル	9		メバニピリム	2000				○									
ジマンダイセン水和剤	M03		マンゼブ	1000	○	○	○		○	○							
ロブラール水和剤	2		イプロジオン	1500				○									
キノドール水和剤40	M01		有機銅	600	○					○							
アリエッティC水和剤	M04		キャプタン	800	○			○		○							
	P07		ホセチル														
オーソサイド水和剤80	M04		キャプタン	800	○	○		○									
スイッチ顆粒水和剤	9		シプロジニル	2000			○	○									
	12		フルジオキソニル														
ポリオキシシAL水和剤	19		ポリオキシシン複合体	500				○									
チ ウ ラ ム 水 和 剤	チオノックフロアブル	M03	チウラム	1000	○	○		○		○							
	トレノックスフロアブル	M03	チウラム	1000	○	○		○		○							
D 剤 M I	インダーフロアブル	3	フェンブコナゾール	8000	○	○		○									
	オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	2000	○	○		○									
	ベランティーフロアブル	3	メフェントリフルコナゾール	8000	○			○									
アミスター10フロアブル	11		アゾキシストロビン	1000		○	○	○	○	○							
ホライズンドライフロアブル	27		シモキサニル	2500		○	○			○							
	11		ファモキサドン														
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル	2000		○	○	○		○							
ピクシオDF	17		フェンピラザミン	2000				○									
ランマンフロアブル	21		シアゾファミド	2000						○							
ライメイフロアブル	21		アミスルプロム	4000						○							
レーバスフロアブル	40		マンジプロパミド	3000						○							
ICボルドー66D	M01		塩基性硫酸銅	50						○							
リ ン 剤 有 機	ガットキラー乳剤	1B	ME P	100							○						
	ガットサイドS	1B	ME P	1.5								○					
	スミチオン水和剤40	1B	ME P	800									○				
パダンSG水溶剤	14		カルタップ	1500							○			○			
ネ オ ニ コ チ 剤	ベストガード水溶剤	4A	ニテンピラム	1000							○			○			
	モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	2000													○
	スタークル顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2000											○		
	アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2000											○		
ピ レ ス ロ 剤	アグロスリン水和剤	3A	シペルメトリン	2000							○		○	○			
	アディオンフロアブル	3A	ペルメトリン	1500							○		○	○			

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	・希釈 使用 量数	適用病害虫名												
					黒とう病	褐斑病	晩腐病	灰色かび病	さび病	べと病	ブドウトラカミキリ	フタテンヒメヨコバイ	コウモリガ	コガネムシ類	チャノキイロアザミウマ	ハダニ類	ツマグロアオカスミカメ
ジ ア ミ 剤	ヨーバルフロアブル		テトラニリプロール	5000										○	○		
	テッパン液剤		シクラニリプロール	2000										○	○		
シ ス ン ピ 剤 ノ	ディアナWDG		スピネトラム	10000											○		
	デリゲートWDG		スピネトラム	10000											○		
	マイトコーネフロアブル		ビフェナゼート	1000												○	
	カネマイトフロアブル		アセキノシル	1000												○	

○：本指針で防除剤として適用するもの。

スミチオン水和剤40は、「小粒種ぶどう(デラウェア、シラガブドウ、やまぶどう)」での農薬登録内容が異なるので注意する。また、アディオフロアブルは「小粒種ぶどう」での農薬登録がない。

「大豆粒大(7月中旬頃)」以降、展着剤は使用しない。

スミチオン水和剤40のコガネムシ類は「コガネムシ類成虫」での農薬登録。

ベストガード水溶剤、ディアナWDG及びデリゲートWDGのチャノキイロアザミウマは「アザミウマ類」での農薬登録。

(2) 防除方法

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒とう病	[耕種的防除法] 1 越冬源となる架線の巻きひげや被害枝は切り取って処分する。 2 発病した新梢や葉などは伝染源となるので、見つけ次第摘み取って処分する。 3 徒長した新梢で発病が多いので窒素過多、強剪定にならないようにする。	1 品種毎で防除時期が異なる。各品種の防除時期を確認し、農薬使用基準の「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 2 (キャンベル・アーリー) 「開花10日前頃(6月上旬)」、「開花直前」及び「落花直後」にアリエッティC水和剤を散布すると、これらの時期の褐斑病対策の防除剤は必要ない。 3 (スチューベン、シャインマスカット) 「休眠期」は重要な防除時期であるので、樹体に薬液が十分かかるように、ていねいに散布する。 4 (シャインマスカット) 発生の多い園地では、休眠期にデランフロアブルを選択する。 5 DMI剤とフルーツセイバーは、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。
休眠期	[薬剤による防除法] (キャンベル・アーリー) デランフロアブル(F:M09) 又はバスポート顆粒水和剤(F:M05) (スチューベン、シャインマスカット) デランフロアブル(F:M09) 又はバスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はベンレート水和剤(F:1)	
新梢伸長期 (約15cm)	(シャインマスカット) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル [DMI剤] インダーフロアブル オンリーワンフロアブル ベランティーフロアブル
新梢伸長期 (約20cm)	(キャンベル・アーリー) チウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3) (スチューベン) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	※薬害欄参照 アリエッティC水和剤 オーソサイド水和剤80 ジマンダイセン水和剤
新梢伸長期 (約30cm)	(シャインマスカット) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項欄参照 ベンレート水和剤
開花10日前頃 (6月上旬)	(キャンベル・アーリー) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3) (スチューベン) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3) 又はキノンドー水和剤40(F:M01)	
開花10日前頃 (6月中旬)	(シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はキノンドー水和剤40(F:M01)	
開花直前	(キャンベル・アーリー) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04) 又はフルーツセイバー(F:7) (スチューベン、シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07)	
落花直後	(3品種共通) アリエッティC水和剤(F:M04, P07)	

* 3品種共通・・・キャンベル・アーリー、スチューベン、シャインマスカットに共通

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
褐斑病 (キャンベル・アーリー)	[耕種の防除法] 1 被害落葉は集めて土中に埋める。また、枝幹部の粗皮はぎを行う。 2 樹勢の衰弱している樹に発生が多いので、肥培管理に注意して、適正着果を守り樹勢の維持に努める。 [薬剤による防除法] チウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3)	1 「大豆粒大(7月中旬頃)」にストロビードライフロアブルを散布すると、この時期のさび病対策の防除剤は必要ない。 2 DMI 剤とフルーツセイバーは、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。 3 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。
新梢伸長期 (約20cm)		
開花10日前頃 (6月上旬)	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3)	
開花直前	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はフルーツセイバー(F:7)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル [DMI 剤] インダーフロアブル オンリーワンフロアブル
落花直後	—	
大豆粒大 (7月中旬頃)	ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はアミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	※薬害欄参照 オーソサイド水和剤80 ストロビードライフロアブル ホライズンドライフロアブル アミスター10フロアブル ジマンダイセン水和剤
8月上旬	ストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	
晩腐病	[耕種の防除法] 1 越冬源となる架線の巻きひげ、成り跡、被害枝の切り取り、剪定枝の処分などの作業を徹底する。 2 発病果粒や発病果房は見つけ次第、摘み取って処分する。 3 園地内の排水や通風を良くし、過湿にならないようにする。 [薬剤による防除法] (キャンベル・アーリー) デランフロアブル(F:M09) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) (スチューベン、シャインマスカット) デランフロアブル(F:M09) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はベンレート水和剤(F:1)	1 「休眠期」は重要な防除時期であるので、樹体に薬液が十分かかるように、ていねいに散布する。 2 (スチューベン) ベンレート水和剤は「休眠期」は200倍、「小豆粒大(7月上旬頃)」は3,000倍で使用する。 3 (スチューベン) 発生の多い園地では「小豆粒大(7月上旬頃)」にベンレート水和剤を特別散布する。 4 「大豆粒大(7月中旬頃)」にストロビードライフロアブルを散布すると、この時期のさび病対策の防除剤は必要ない。 5 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。
休眠期		
落花直後	(3品種共通) スイッチ顆粒水和剤(F:9, 12)	
小豆粒大 (7月上旬頃)	(スチューベン) ベンレート水和剤(F:1)	※薬害欄参照 アミスター10フロアブル スイッチ顆粒水和剤 ストロビードライフロアブル ホライズンドライフロアブル ジマンダイセン水和剤
大豆粒大 (7月中旬頃)	(キャンベル・アーリー、スチューベン) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はアミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11) (シャインマスカット) アミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項欄参照 ベンレート水和剤
8月上旬	(キャンベル・アーリー) ストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11) (スチューベン、シャインマスカット) アミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	

* 3品種共通・・・キャンベル・アーリー、スチューベン、シャインマスカットに共通

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
べと病 (スチューベン、 シャインマスカット)	[耕種的防除法] 1 軟弱な生育を避けるために、窒素肥料を施用し過ぎない。 2 発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取って処分する。また、被害落葉も集めて処分する。 3 排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。	1 品種毎で防除時期が異なる。各品種の防除時期を確認し、農業使用基準の「使用回数」に注意して薬剤を選択する。
新梢伸長期 (約15cm)	[薬剤による防除法] (シャインマスカット) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はチウラム水和剤(F:M03)	2 (スチューベン) 発生の多い園地では、「新梢伸長期(約20cm)」から「8月上旬」までの防除対策を徹底する。
新梢伸長期 (約20cm)	(スチューベン) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はチウラム水和剤(F:M03)	3 (シャインマスカット) 発生の多い園地では、「新梢伸長期(約15cm)」から「8月中旬」までの防除対策を徹底する。
新梢伸長期 (約30cm)	(シャインマスカット) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はチウラム水和剤(F:M03)	4 発生の多い園地では、「落花直後」にアリエッティC水和剤を使用しない場合は、ランマンフロアブル又はライメイフロアブルも使用する。
開花10日前頃 (6月上旬)	(スチューベン) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はキノンドー水和剤40(F:M01) 又はチウラム水和剤(F:M03)	5 (スチューベン) 例年秋季に発生が多い園地では、「8月中旬」にレーバスフロアブルを特別散布する。
開花10日前頃 (6月中旬)	(シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はキノンドー水和剤40(F:M01)	6 (シャインマスカット) 長雨が見込まれ、発生が懸念される場合は、袋かけ後の「8月下旬」にランマンフロアブル、ライメイフロアブル、ICボルドー66Dのいずれかを特別散布する。
開花直前	(スチューベン、シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07)	7 「大豆粒大(7月中旬頃)」にストロビードライフロアブルを散布すると、この時期のさび病対策の防除剤は必要ない。
落花直後	(スチューベン、シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はランマンフロアブル(F:21) 又はライメイフロアブル(F:21)	8 ランマンフロアブルとライメイフロアブルは同じ系統の薬剤であり、薬剤耐性発達の懸念があるので、「スチューベン」では合わせて年1回の使用にとどめ、「シャインマスカット」では合わせて年2回以内の使用とし、連続使用しない。
大豆粒大 (7月中旬頃)	(スチューベン) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はアミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	9 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。
	(シャインマスカット) アミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	10 レーバスフロアブルは薬剤耐性発達の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。
8月上旬	(スチューベン、シャインマスカット) アミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はホライズンドライフロアブル(F:27, 11)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
8月中旬	(スチューベン、シャインマスカット) レーバスフロアブル(F:40)	※薬害欄参照 アリエッティC水和剤 アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル ホライズンドライフロアブル
8月下旬	(シャインマスカット) ランマンフロアブル(F:21) 又はライメイフロアブル(F:21) 又はICボルドー66D(F:M01)	ジマンダイセン水和剤
さび病	[耕種的防除法] 1 被害落葉はかき集めて土中深く埋めるなどの処分をする。 2 中間寄主(野生植物)のアワブキ属植物を伐採する。	※薬害欄参照
大豆粒大 (7月中旬頃)	[薬剤による防除法] (キャンベル・アーリー、スチューベン) ジマンダイセン水和剤(F:M03) 又はアミスター10フロアブル(F:11)	アミスター10フロアブル ジマンダイセン水和剤
	(シャインマスカット) アミスター10フロアブル(F:11)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
灰色かび病	[耕種的防除法] 1 新梢の摘心や誘引を適切に行い、園地内の通風を良くする。 2 発病葉、発病花穂、発病果及び発病枝はできるだけ早く取り除き土中に深く埋める。 3 ハウス栽培では室内の換気に努め、過湿にならないようにする。 4 長期貯蔵する場合、冷蔵庫内に発病果や裂果及び雨に濡れた果実を持ち込まない。	1 品種毎で防除時期が異なる。各品種の防除時期を確認し、農業使用基準の「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 2 (キャンベル・アーリー) 「開花10日前頃(6月上旬)」、「開花直前」及び「落花直後」にアリエッティC水和剤を散布すると、この時期の褐斑病対策の防除剤は必要ない。 3 (キャンベル・アーリー) 「開花10日前頃(6月上旬)」の散布後、低温が続いて次の「開花直前」までの散布間隔が開きすぎると、多発が懸念されるので、「開花見込みの1週間前頃」にピクシオDFを特別散布する。 4 (キャンベル・アーリー) 発生の多い園地では「開花直前」にゲッター水和剤又はフルーツセイバーを選択する。 5 (スチューベン、シャインマスカット) 発生の多い園地では「開花直前」にゲッター水和剤を選択する。 6 (スチューベン) 長期貯蔵向けでは「8月下旬～9月上旬」にフルーツセイバーを特別散布する。 7 (シャインマスカット) 長期貯蔵向けでは、袋かけ前(7月下旬～8月上旬)にフルーツセイバーを特別散布する。薬剤散布後、薬液が乾いてから袋かけを行う。 8 DMI剤とフルーツセイバーは、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。 9 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。
新梢伸長期 (約15cm)	[薬剤による防除法] (シャインマスカット) ポリオキシシAL水和剤(F:19) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	
新梢伸長期 (約20cm)	(キャンベル・アーリー、スチューベン) ポリオキシシAL水和剤(F:19) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	
新梢伸長期 (約30cm)	(シャインマスカット) ポリオキシシAL水和剤(F:19) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	
開花10日前頃 (6月上旬)	(キャンベル・アーリー) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3) (スチューベン) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はチウラム水和剤(F:M03) 又はインダーフロアブル(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3) 又はベランティーフロアブル(F:3)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
開花10日前頃 (6月中旬)	(シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07)	[DMI剤] インダーフロアブル オンリーワンフロアブル ベランティーフロアブル
開花見込みの 1週間前頃	(キャンベル・アーリー) ピクシオDF(F:17)	
開花直前	(キャンベル・アーリー) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04) 又はゲッター水和剤(F:10, 1) 又はフルーツセイバー(F:7) (スチューベン、シャインマスカット) アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はゲッター水和剤(F:10, 1)	※薬害欄参照 フルピカフロアブル スイッチ顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル アリエッティC水和剤
落花直後	(3品種共通) ロブラール水和剤(F:2) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はスイッチ顆粒水和剤(F:9, 12) 又はフルピカフロアブル(F:9)	※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の 注意事項欄参照 ゲッター水和剤
8月上旬	(スチューベン、シャインマスカット) アミスター10フロアブル(F:11) 又はストロビードライフロアブル(F:11)	
7月下旬～ 8月上旬	(シャインマスカット) フルーツセイバー(F:7)	
8月下旬～ 9月上旬	(スチューベン) フルーツセイバー(F:7)	

* 3品種共通・・・キャンベル・アーリー、スチューベン、シャインマスカットに共通

【農薬節減に係る情報（病害関係）】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 キャンベル・アーリーの黒とう病対策及び灰色かび病対策として「開花10日前頃（6月上旬）」、「開花直前」及び「落花直後」にアリエッティC水和剤を散布すると、これらの時期の褐斑病対策の防除剤は必要ない。
- 2 晩腐病対策、キャンベル・アーリーの褐斑病対策及びスチューベンとシャインマスカットのべと病対策として「大豆粒大（7月中旬頃）」にストロビードライフロアブルを散布すると、この時期のさび病対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 アリエッティC水和剤、オーソサイド水和剤80、アミスター10フロアブル及びストロビードライフロアブルはスミチオン水和剤40との組み合わせで、薬害を生じるおそれがある。
- 2 ホライズンドライフロアブルは、ベストガード水溶剤と組み合わせると分解する。
- 3 アミスター10フロアブルは、大粒種では果粉を損なう。また、りんごの「あかね」、「彩香」など一部の品種に薬害を生じる。
- 4 ストロビードライフロアブルは、大粒種で果粉を損なう。また「ロザリオ・ピアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。日本なしに、落花30日後頃までの使用で薬害を生じるおそれがある。
- 5 フルピカフロアブルは、りんごに開花期から落花20日後頃の使用で薬害を生じる。また、おうとうに薬害を生じる。
- 6 スイッチ顆粒水和剤は、おうとうに薬害を生じるおそれがある。
- 7 ジマンダイセン水和剤は、ハウス栽培の「新梢伸長期(約20cm)」の散布で薬害を生じた事例がある。
- 8 アリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する(物理性の悪化)。

【ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項】

- 1 ベンレート水和剤を使用する場合はゲッター水和剤を使用しない。
- 2 ゲッター水和剤を使用する場合はベンレート水和剤を使用しない。

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ブドウトラ カミキリ 休眠期	[耕種的防除法] 1 剪定時に越冬幼虫が潜んでいる被害枝を切り取って処分する。 2 園地の清掃を徹底する。 3 粗皮はぎを行う。 4 剪定枝は処分する。 [薬剤による防除法] (3品種共通) ガットキラール剤(I:1B)	
フタテンヒメ ヨコバイ 新梢伸長期 (約15cm)	[薬剤による防除法] (シャインマスカット) パダンSG水溶剤(I:14) 又はアグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)	1 品種毎で防除時期が異なる。各品種の防除時期を確認し、農薬使用基準の「使用回数」に注意して薬剤を選択する。
新梢伸長期 (約20cm)	(キャンベル・アーリー、スチューベン) パダンSG水溶剤(I:14) 又はアグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)	2 (シャインマスカット) 「新梢伸長期(約15cm)」に、パダンSG水溶剤、アグロスリン水和剤又はアディオフロアブルを散布すると、この時期のツマグロアオカスミカメ対策の防除剤は必要ない。
開花10日前頃 (6月上旬)	(キャンベル・アーリー、スチューベン) ベストガード水溶剤(I:4A) 又はアグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)	3 (キャンベル・アーリー、スチューベン) 「新梢伸長期(約20cm)」に、パダンSG水溶剤、アグロスリン水和剤又はアディオフロアブルを散布すると、この時期のツマグロアオカスミカメ対策の防除剤は必要ない。
開花10日前頃 (6月中旬)	(シャインマスカット) ベストガード水溶剤(I:4A) 又はパダンSG水溶剤(I:14)	4 アグロスリン水和剤及びアディオフロアブルは天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、発生動向に注意する。
開花直前	(キャンベル・アーリー、スチューベン) ベストガード水溶剤(I:4A) 又はパダンSG水溶剤(I:14) (シャインマスカット) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)	※薬害欄参照 ベストガード水溶剤
落花直後	(3品種共通) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)	
大豆粒大 (7月中旬頃)	(3品種共通) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)	
ブドウスカシバ	[耕種的防除法] 被害枝は切り取って処分する。	
コウモリガ 6月上旬	[耕種的防除法] 園地の清掃に努め、被害を見つけ次第針金などで幼虫を刺殺する。 [薬剤による防除法] (3品種共通) ガットサイドS(I:1B)	1 発生の多い場合は「6月上旬」に、樹幹部にガットサイドSを塗布又は散布する。 2 薬害が生じるので新梢には処理しない。

* 3品種共通・・・キャンベル・アーリー、スチューベン、シャインマスカットに共通

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項	
コガネムシ類	[耕種的防除法] ドウガネブイブイは6月上旬～8月中旬、ヒメコガネは6月下旬～9月中旬、マメコガネは7月に成虫が現れるので、捕殺する。	1 品種毎で防除時期が異なる。各品種の防除時期を確認し、農薬使用基準の「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 2 「7月下旬」に発生がみられる場合は、アグロスリン水和剤、アディオフロアブル、スミチオン水和剤40、ヨールフロアブル、テッパン液剤のいずれかを特別散布する。 3 アグロスリン水和剤及びアディオフロアブルは天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、発生動向に注意する。	
開花直前	[薬剤による防除法] (シャインマスカット) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)		
落花直後	(3品種共通) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A)		
大豆粒大 (7月中旬頃)	(3品種共通) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はヨールフロアブル(I:28) 又はテッパン液剤(I:28)		
7月下旬	(3品種共通) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はスミチオン水和剤40(I:1B) 又はヨールフロアブル(I:28) 又はテッパン液剤(I:28)		※薬害欄参照 スミチオン水和剤40
チャノキイロ アザミウマ	[薬剤による防除法] (シャインマスカット) ベストガード水溶剤(I:4A) 又はパダンSG水溶剤(I:14) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A)	1 品種毎で防除時期が異なる。各品種の防除時期を確認し、農薬使用基準の「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 2 (キャンベル・アーリー、スチューベン) 「開花直前」及び「落花直後」に、ジノテフラン水溶剤を散布すると、これらの時期のフタテンヒメヨコバイ対策の防除剤は必要ない。 3 (シャインマスカット) 「開花10日前頃(6月中旬)」、「開花直前」及び「落花直後」に、ジノテフラン水溶剤を散布すると、これらの時期のフタテンヒメヨコバイ対策の防除剤は必要ない。 4 (シャインマスカット) 発生が懸念される園地では、「大豆粒大(7月中旬頃)」の散布後、袋かけ前まで10日間隔で特別散布する。使用する薬剤は、「7月下旬」はアグロスリン水和剤、アディオフロアブル、ヨールフロアブル、テッパン液剤のいずれか、「8月上旬」及び「8月中旬」はスピノシン剤とする。薬剤散布後、薬液が乾いてから速やかに袋かけを行う。 5 アグロスリン水和剤及びアディオフロアブルは天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、発生動向に注意する。	
開花10日前頃 (6月中旬)	(シャインマスカット) ベストガード水溶剤(I:4A) 又はパダンSG水溶剤(I:14) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A)		
開花直前	(キャンベル・アーリー、スチューベン) ベストガード水溶剤(I:4A) 又はパダンSG水溶剤(I:14) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A) (シャインマスカット) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A)		
落花直後	(3品種共通) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A)		
大豆粒大 (7月中旬頃)	(キャンベル・アーリー、スチューベン) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はヨールフロアブル(I:28) 又はテッパン液剤(I:28) 又はスピノシン剤(I:5) (シャインマスカット) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はヨールフロアブル(I:28) 又はテッパン液剤(I:28)		[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
7月下旬	(シャインマスカット) アグロスリン水和剤(I:3A) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はヨールフロアブル(I:28) 又はテッパン液剤(I:28)		[スピノシン剤] ディアナWDG デリゲートWDG
8月上旬	(シャインマスカット) スピノシン剤(I:5)		※薬害欄参照 ベストガード水溶剤 ジノテフラン水溶剤
8月中旬	(シャインマスカット) スピノシン剤(I:5)		

* 3品種共通・・・キャンベル・アーリー、スチューベン、シャインマスカットに共通

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ツマグロアオカスミカメ	[耕種的防除法] 園地内の下草刈り等の清掃に努める。	1 発生の多い園地では、「展葉直前（5月上旬）」にモスピラン顆粒水溶剤を特別散布する。 ※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
展葉直前（5月上旬）	[薬剤による防除法] (3品種共通) モスピラン顆粒水溶剤(I:4A)	
新梢伸長期（約15cm）	(シャインマスカット) —	
新梢伸長期（約20cm）	(キャンベル・アーリー、スチューベン) —	
ハダニ類 落花直後～大豆粒大（7月中旬頃）	[薬剤による防除法] (スチューベン) マイトコーネフロアブル(I:20D) 又はカネマイトフロアブル(I:20B)	1 発生状況に応じて防除剤を使用する。 ※薬害欄参照 マイトコーネフロアブル カネマイトフロアブル
開花直前～大豆粒大（7月中旬頃）	(シャインマスカット) マイトコーネフロアブル(I:20D) 又はカネマイトフロアブル(I:20B)	

* 3品種共通・・・キャンベル・アーリー、スチューベン、シャインマスカットに共通

【農薬節減に係る情報（虫害関係）】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 キャンベル・アーリー及びスチューベンのフタテンヒメヨコバイ対策として「新梢伸長期（約20cm）」に、パダンSG水溶剤、アグロスリン水和剤又はアディオフロアブルを散布すると、この時期のツマグロアオカスミカメ対策の防除剤は必要ない。
- 2 シャインマスカットのフタテンヒメヨコバイ対策として「新梢伸長期（約15cm）」に、パダンSG水溶剤、アグロスリン水和剤又はアディオフロアブルを散布すると、この時期のツマグロアオカスミカメ対策の防除剤は必要ない。
- 3 キャンベル・アーリー及びスチューベンのチャノキイロアザミウマ対策として「開花直前」及び「落花直後」に、ジノテフラン水溶剤を散布すると、これらの時期のフタテンヒメヨコバイ対策の防除剤は必要ない。
- 4 シャインマスカットのチャノキイロアザミウマ対策として「開花10日前頃（6月中旬）」、「開花直前」及び「落花直後」に、ジノテフラン水溶剤を散布すると、これらの時期のフタテンヒメヨコバイ対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 スミチオン水和剤40は、アリエッティC水和剤、オーソサイド水和剤80、アミスター10フロアブル及びストロビードライフフロアブルとの組み合わせで、薬害を生じるおそれがある。
- 2 ベストガード水溶剤及びジノテフラン水溶剤は、小豆粒大期以降使用すると果粉溶脱を生じる。
- 3 マイトコーネフロアブル及びカネマイトフロアブルは、8月以降の散布で果面汚染のおそれがある。
- 4 ベストガード水溶剤は、ホライズンドライフフロアブルと組み合わせると分解する。
- 5 モスピラン顆粒水溶剤は、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では葉に薬害を生じる。また、ネクタリンでは、品種により葉に薬害を生じるおそれがある。

【展着剤】

「大豆粒大（7月中旬頃）」以降、展着剤は使用しない。

2 おうとう

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	・希 積 倍 数	適用病害虫名												
					灰 星 病	褐 色 せん 孔 病	炭 疽 病	幼 果 菌 核 病	切 り 口 及 び 傷 口 の ゆ 合 促 進	ウ メ シ ロ カ イ ガ ラ ム シ	ハ マ キ ム シ 類	オ ウ ト ウ ハ マ ダ ラ ミ バ エ	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	オ ウ ト ウ シ ョ ウ ジ ョ ウ バ エ	コ ス カ シ バ	ハ ダ ニ 類
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル	1000					○								
オーソサイド水和剤80	M04		キャブタン	800	○	○	○										
D M I 剤	アンビルフロアブル	3	ヘキサコナゾール	1000	○												
	オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	2000	○	○	○										
	ラリー水和剤	3	マイクロブタニル	2000	○												
	オーシャイン水和剤	3	オキシボコナゾールフマル酸塩	3000	○			○									
	インダーフロアブル	3	フェンブコナゾール	5000	○												
	サンリット水和剤	3	シメコナゾール	2000				○									
ナリアWDG	11		ピラクロストロビン	2000	○	○	○										
	7		ボスカリド														
アミスター10フロアブル	11		アゾキシストロビン	1000	○	○	○										
ファンタジスタ顆粒水和剤	11		ピリベンカルブ	3000	○	○											
パスワード顆粒水和剤	17		フェンヘキサミド	1500	○												
オキシラン水和剤	M04		キャブタン	600		○											
	M01		有機銅														
チ ウ ラ ム 水 和 剤	チオノックフロアブル	M03	チウラム	500	○	○	○										
	トレノックスフロアブル	M03	チウラム	500	○	○	○										
トップジンMペースト	1		チオファネートメチル	原液					○								
バッチレート	M01		有機銅	原液					○								
マ シ ン 油	ハーベストオイル	—	マシン油	50						○							
	トモノールS	—	マシン油	50						○							
フェニックスフロアブル	28		フルベンジアミド	500												○	
ダイアジノン水和剤34	1B		ダイアジノン	1000						○	○	○					
I G R 剤	アタブロンSC	15	クロルフルアズロン	4000							○						
	アブロードフロアブル	16	ブプロフェジン	1000						○							
ネ オ ニ コ チ ノ イ ド 剤	スタークル顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2000										○			
	アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2000										○			
	ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	2000													
イ レ ス ロ 剤	アディオンフロアブル	3A	ペルメトリン	2000							○						
	テルスターフロアブル	3A	ビフェントリン	4000									○	○			
	ロビンフッド	3A	フェンプロパトリン													○	
エクシレルSE	28		シアントラニプロール	2500											○		
テッパン液剤	28		シクラニプロール	2000											○		
シ ス ピ 剤 ノ	ディアナWDG	5	スピネトラム	10000											○		
	デリゲートWDG	5	スピネトラム	10000											○		
マイトコーネフロアブル	20D		ビフェナゼート	1000													○
カネマイトフロアブル	20B		アセキノシル	1000													○
コロマイト乳剤	6		ミルベメクチン	1000													○
スカシバコンL	—		シナンセルア	40~100 本/10a												○	

○：本指針で防除剤として適用するもの。

オキシラン水和剤の褐色せん孔病は、「せん孔病」での農薬登録。

バッチレートの切り口及び傷口のゆ合促進は「傷口のゆ合促進」での農薬登録。

ハーベストオイル及びトモノールSのウメシロカイガラムシは「カイガラムシ類」での農薬登録。

アブロードフロアブルのカイガラムシ類は「カイガラムシ類幼虫」での農薬登録。

スカシバコンLは「果樹類」での農薬登録。

テルスターフロアブルのオウトウショウジョウバエは「ショウジョウバエ類」での農薬登録。

ロビンフッドのコスカシバは「スカシバ類」での農薬登録。

おうとう

(2) 防除方法

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
灰星病	[耕種的防除法] 1 剪定など春先の作業時に樹上のミイラ果を摘み取って処分し、菌密度の低下を図る。 2 越冬菌核の子のう盤（キノコ）形成を抑制するために、早春に園地を清掃・耕起し、乾燥を図る。 3 花腐れや実腐れは見つけ次第、摘み取って処分する。 4 樹高を低くし、風通しが良く採光の良い樹形にする。	1 もも、すもも、あんずなど多くの果樹類に発生する。 2 花腐れ防止のため、「満開5日後頃」の薬剤散布は時期が遅れないように適期に行う。雨の多い場合は晴れ間を見て散布する。 3 「満開35日後頃」以降、多発が懸念される場合は「収穫見込みの7日前頃」に、パスワード顆粒水和剤又はインダーフロアブルを特別散布する。
開花直前	[薬剤による防除法] オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	4 「満開35日後頃」にアンビルフロアブルを散布すると、この時期の褐色せん孔病対策の防除剤は必要ない。
満開5日後頃	パスワード顆粒水和剤 (F:17) 又はオンリーワンフロアブル (F:3) 又はラリー水和剤 (F:3) 又はオーシャイン水和剤 (F:3)	5 「満開35日後頃」に、「紅さやか」などの早生種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。 6 DMI 剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続使用しない。
満開12日後頃	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	7 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。
満開25日後頃	オーソサイド水和剤80 (F:M04)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
満開35日後頃	アミスター10フロアブル (F:11) 又はファンタジスタ顆粒水和剤 (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) 又はアンビルフロアブル (F:3) 又はオンリーワンフロアブル (F:3)	[DMI 剤] ラリー水和剤 アンビルフロアブル オンリーワンフロアブル インダーフロアブル オーシャイン水和剤
‘佐藤錦’の収穫見込みの7日前頃	パスワード顆粒水和剤 (F:17) 又はインダーフロアブル (F:3)	
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) 又はインダーフロアブル (F:3) 又はオンリーワンフロアブル (F:3)	※薬害欄参照 パスワード顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 アミスター10フロアブル ナリアWDG
収穫前 (晩生種)	アミスター10フロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	
褐色せん孔病	[耕種的防除法] 病原菌は被害落葉で越冬するので、発芽までに園地内の落葉を集めて処分する。	1 多発すると早期に落葉するので、「収穫後」の薬剤散布を速やかに行う。 2 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。
満開25日後頃	[薬剤による防除法] オーソサイド水和剤80 (F:M04)	3 DMI 剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続使用しない。
満開35日後頃	アミスター10フロアブル (F:11) 又はファンタジスタ顆粒水和剤 (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) 又はオンリーワンフロアブル (F:3)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) 又はオンリーワンフロアブル (F:3)	[DMI 剤] オンリーワンフロアブル
収穫前 (晩生種)	アミスター10フロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	※薬害欄参照
収穫後	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はオキシラン水和剤 (F:M04, M01) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	オーソサイド水和剤80 アミスター10フロアブル ナリアWDG

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
炭疽病	[耕種的防除法] 発芽しない枝や枯死した花束状短果枝などは伝染源になるので、切り取って処分する。	1 りんご、なし、ぶどうなど多くの果樹類に発生する。 2 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。 3 DMI 剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続使用しない。 [チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル [DMI 剤] オンリーワンフロアブル ※薬害欄参照 オーソサイド水和剤80 アミスター10フロアブル ナリアWDG
	[薬剤による防除法] オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	
	満開12日後頃	
	満開25日後頃	
	満開35日後頃	
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) 又はオンリーワンフロアブル (F:3)	
収穫前 (晩生種)	アミスター10フロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	
幼果菌核病	[耕種的防除法] 1 越冬菌核の子のう盤(キノコ)形成を抑制するために、早春に園地を清掃・耕起し、乾燥を図る。 2 発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。また、薬剤が十分かかるよう樹高を低くし、風通しが良く採光の良い樹形にする。	1 例年、発生の多い園地では、「満開日」にトップジンM水和剤、オーシャイン水和剤、サンリット水和剤のいずれかを特別散布する。
	[薬剤による防除法] トップジンM水和剤 (F:1) 又はオーシャイン水和剤 (F:3) 又はサンリット水和剤 (F:3)	

【農薬節減に係る情報(病害関係)】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 灰星病対策として「満開35日後頃」にアンビルフロアブルを散布すると、この時期の褐色せん孔病対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 オーソサイド水和剤80は、5月下旬以降の散布には固着性の強い展着剤を添加しない。
- 2 アミスター10フロアブルは、りんごの「あかね」、「彩香」など一部の品種に薬害を生じる。
- 3 パスワード顆粒水和剤はぶどうの「スチューベン」、「バッファロー」、「ポートランド」など一部の品種で軽微な薬害を生じることがある。
- 4 ナリアWDGは、なしの開花始めから落花20日後頃までの葉及び西洋なしの「ル・レクチエ」の果実に薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうの「サニールージュ」の葉に薬害を生じるおそれがある。

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
オウトウ ハマダラミバエ	[耕種的防除法] 1 幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬ける。 2 発生が多いところでは樹冠下を耕起する。 [薬剤による防除法] アディオフロアブル(I:3A)	1 「満開12日後頃」及び「満開25日後頃」にアディオフロアブルを散布すると、これらの時期のカメムシ類対策の防除剤は必要ない。 2 「満開12日後頃」にアディオフロアブルを散布すると、この時期のハマキムシ類対策の防除剤は必要ない。 3 アディオフロアブルは天敵類に強い影響があり、ハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、これらの害虫の発生動向に注意する。
満開12日後頃	アディオフロアブル(I:3A)	
満開25日後頃	アディオフロアブル(I:3A)	
ハマキムシ類 (ミダレカクモンハマキ)	[耕種的防除法] 1 剪定などの作業時に卵塊を見つけたら、つぶして処分する。 2 剪定枝に越冬卵が残り、発生源となる場合があるので、幼虫のふ化が始まる4月下旬までに処分する。 [薬剤による防除法] アタブロンSC(I:15)	1 ミダレカクモンハマキの多い園地では、「開花直前」と「満開5日後頃」にアタブロンSCを連続散布する。
開花直前	アタブロンSC(I:15)	
満開5日後頃	アタブロンSC(I:15)	
満開12日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
コスカシバ	[耕種的防除法] 生育期に枝幹部や地際部に樹脂(ヤニ)又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。 [薬剤による防除法] フェニックスフロアブル(I:28)	1 薬剤の散布や交信攪乱剤(スカシバコンL)の設置、幼虫の刺殺などの総合防除を行う。 2 開花前までにフェニックスフロアブルを樹幹部に、薬液が十分かかるように手散布する。 3 スカシバコンLは30a以上のまとまった面積で取り付けると効果的である。園地の周縁部には多めに取り付ける。また、傾斜のある園地では、傾斜の上部に多めに取り付ける。
開花前	フェニックスフロアブル(I:28)	
5月中旬～下旬	スカシバコンL(I:-)	4 スカシバコンLは毎年更新する。
生育期 (発生に応じて)	ロビンフッド(I:3A)	5 生育期に枝幹部や地際部に虫糞の発生がみられる場合は、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。
アブラムシ類	[耕種的防除法] 不要な徒長枝を早めに剪去する。 [薬剤による防除法] ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
満開25日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
ウメシロ カイガラムシ	[耕種的防除法] 切り取った被害枝は、園外に運び出して処分する。 [薬剤による防除法] マシン油乳剤(I:-)	1 発生の多い樹では「発芽前」の薬剤散布前にワイヤーブラシ等で越冬成虫を落とす。 2 「発芽前」にマシン油乳剤を散布すると、この時期のハダニ類対策の防除剤は必要ない。 3 発生の多い樹では、「収穫後の8月上旬～中旬」の幼虫ふ化最盛期にアブロードフロアブルを特別散布する。
発芽前	マシン油乳剤(I:-)	
満開25日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
収穫後 (8月上旬～中旬 の幼虫ふ化最盛期)	アブロードフロアブル(I:16)	[マシン油乳剤] ハーベストオイル トモノールS
ハダニ類	[耕種的防除法] 不要な徒長枝を早めに剪去して処分する。 [薬剤による防除法] -	1 発生状況に応じて防除剤を使用する。 ※薬害欄参照 コロマイト乳剤
発芽前	-	
収穫後	カネマイトフロアブル(I:20B) 又はコロマイト乳剤(I:6) 又はマイトコーネフロアブル(I:20D)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
モンクロ シャチホコ	[耕種的防除法] 早期に発見し、幼虫を捕殺する。	
オウトウシヨウ ジョウバエ	[耕種的防除法] 1 被害果は速やかに処分し、密度の低下を図る。 2 樹上の取り残し果実も、重要な発生源になるので、できるだけ摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] テルスターフロアブル (I:3A) 又はスピノシン剤 (I:5)	1 「満開35日後頃」の比較的早い時期から加害が始まる場合があるので、発生状況に応じて薬剤散布を行う。 2 テルスターフロアブルは天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、これらの害虫の発生動向に注意する。
満開35日後頃		
収穫前 (佐藤錦)	エクシレルSE (I:28) 又はテッパン液剤 (I:28)	
収穫前 (晩生種)	テルスターフロアブル (I:3A) 又はスピノシン剤 (I:5)	[スピノシン剤] ディアナWDG デリゲートWDG
カメムシ類	[耕種的防除法] 1 春先までに越冬場所（作業小屋や落葉の下など）に潜伏している成虫を捕まえて処分する。 2 5月末頃から8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。 3 ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕まえて処分する。 [薬剤による防除法] —	1 テルスターフロアブルは天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、これらの害虫の発生動向に注意する。
満開12日後頃	—	
満開25日後頃	ジノテフラン水溶剤 (I:4A) 又はダントツ水溶剤 (I:4A)	[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
満開35日後頃	テルスターフロアブル (I:3A)	
収穫前 (佐藤錦)	—	
収穫前 (晩生種)	テルスターフロアブル (I:3A)	

【農薬節減に係る情報（虫害関係）】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 オウトウハマダラミバエ対策として「満開12日後頃」にアディオフロアブルを散布すると、この時期のハマキムシ類対策の防除剤は必要ない。
- 2 オウトウハマダラミバエ対策として「満開12日後頃」及び「満開25日後頃」にアディオフロアブルを散布すると、これらの時期のカメムシ類対策の防除剤は必要ない。
- 3 ウメシロカイガラムシ対策として「発芽前」にマシン油乳剤を散布すると、この時期のハダニ類対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 コロマイト乳剤はなしに薬害を生じるおそれがある。

3 もも

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	希 積 用 量 倍 数	適用病害虫名・使用目的												
					縮 葉 病	黒 星 病	灰 星 病	せん 孔 細 菌 病	白 紋 羽 病	切 り 口 及 び 傷 口 の ゆ 合 促 進	シ ン ク イ ム シ 類	モ モ ハ モ グ リ ガ	コ ス カ シ バ	ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	カ メ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	銅 水 和 剤 に よ る 葉 害 の 軽 減
石灰硫黄合剤	M02		石灰硫黄合剤	7	○	○											
キノンドー水和剤40	M01		有機銅	500	○												
ムチ 水 和 ラ	チオノックフロアブル	M03	チウラム	500	○	○	○										
	トレノックスフロアブル	M03	チウラム	500	○	○	○										
D M I 剤	インダーフロアブル	3	フェンブコナゾール	5000			○										
	オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	2000			○										
	スコア顆粒水和剤	3	ジフェノコナゾール	2000			○										
	アンビルフロアブル	3	ヘキサコナゾール	1000			○										
ダコニール1000	M05		T P N	1000		○	○										
デランフロアブル	M09		ジチアノン	600		○	○	○									
ロブラール水和剤	2		イプロジオン	1500			○										
ベルコートフロアブル	M07		イミノクタジナルベシル酸塩	2000		○	○										
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル	2000			○										
ナリアWDG	11		ピラクロストロビン	2000			○										
	7		ボスカリド					○									
I Cボルドー412	M01		塩基性硫酸銅	30				○									
クプロシールド	M01		塩基性硫酸銅	1000				○									
I Cジンク水和剤	※		酸化亜鉛	1000				○									
抗 生 物 質 剤	アグリマイシン-100	41	オキシテトラサイクリン	1500				○									
		25	ストレプトマイシン硫酸塩					○									
	アグレプト水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩	1000				○									
	マイコシールド	41	オキシテトラサイクリン	2000				○									
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン	500				○										
スターナ水和剤	31		オキシソリニック酸	1000				○									
剤 硫 水 黄 和	サルファーズル	M02	硫黄	500		○											
	イオウフロアブル	M02	硫黄	500		○											
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル	500					○								
トップジンMペースト	1		チオファネートメチル	原液						○							
フェニックスフロアブル		28	フルベンジアミド	500								○					
剤 有 機	スミチオン水和剤40		1B M E P	800							○				○		
	ダイアジノン水和剤34		1B ダイアジノン	1000							○				○		
オリオン水和剤40		1A アラニカルブ	1000							○				○			
剤 イ ド レ ス ロ	バイスロイドEW		3A シフルトリン	2000						○	○						
	イカズチWDG		3A シペルメトリン	1500						○	○				○		
	テルスターフロアブル		3A ビフェントリン	3000						○					○		
	ロビンフード		3A フェンプロパトリン										○				
剤 チ ネ オ イ ド コ	ダントツ水溶剤		4A クロチアニジン	2000						○	○				○		
	モスピラン顆粒水溶剤		4A アセタミプリド	4000						○	○						
	スタークル顆粒水溶剤		4A ジノテフラン	2000						○	○				○		
	アルバリン顆粒水溶剤		4A ジノテフラン	2000						○	○				○		
エクシレルSE		28 シアントラニリブロール	5000						○	○							
サムコルフロアブル10		28 クロラントラニリブロール	5000						○	○							

※: 未設定

○: 本指針で防除剤として適用するもの。

トップジンM水和剤は、「もも(苗木)」での農薬登録。

I Cジンク水和剤は、「もも類」での農薬登録。

コンフェューザーR及びスカシバコンLは「果樹類」での農薬登録。

コンフェューザーRのシンクイムシ類は「モモシンクイガ」及び「ナシヒメシンクイ」での農薬登録。

ダイアジノン水和剤34及びオリオン水和剤40のクワコナカイガラムシは「カイガラムシ類」での農薬登録。

ロビンフードのコスカシバは「スカシバ類」での農薬登録。

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	・希 積倍 使用 量数	適用病害虫名・使用目的													
					縮 葉 病	黒 星 病	灰 星 病	せん 孔 細 菌 病	白 紋 羽 病	切 り 口 及 び 傷 口 の ゆ 合 促 進	シ ン ク イ ム シ 類	モ モ ハ モ グ リ ガ	コ ス カ シ バ	ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	カ メ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	銅 水 和 剤 に よ る 葉 害 の 軽 減	
カネマイトフロアブル		20B	アセキノシル	1000														○
ダニゲッターフロアブル		23	スピロメシフェン	2000														○
マイトコーネフロアブル		20D	ビフェナゼート	1000														○
ダニサラバフロアブル		25A	シフルメトフェン	1000														○
コンフェューザーR		—	— オリフルア — トートリルア — ピーチフルア	100本 /10a							○							
スカシバコンL		—	— シナンセルア	40～100 本/10a									○					
クレフノン		—	— 炭酸カルシウム	100														○

クレフノンは「核果類（うめ、すももを除く）」での農薬登録。

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
縮葉病	[耕種的防除法] 発病葉は見つけ次第、摘み取って処分する。	1 「発芽前」は防除の基本であるので、ていねいに薬剤を散布する。 2 「発芽前」にキノンドー水和剤40を散布すると、この時期の黒星病対策の防除剤は必要ない。
発芽前	[薬剤による防除法] キノンドー水和剤40 (F:M01) 又はチウラム水和剤 (F:M03) 又は石灰硫黄合剤 (F:M02)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
黒星病	[耕種的防除法] 1 枝病斑は重要な伝染源になるので、枝ごと切り取って処分する。 2 発病葉、発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。	1 うめ、あんずにも発生する。 2 多雨の条件下で多発する。中でも幼果期は感染が多くなるので、「落花10日後頃」～「落花30日後頃」の薬剤散布はていねいに行う。
発芽前	[薬剤による防除法] チウラム水和剤 (F:M03) 又は石灰硫黄合剤 (F:M02)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
落花10日後頃	チウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	[水和硫黄剤] サルファーゾル イオウフロアブル
落花20日後頃	ダコニール1000 (F:M05) 又はチウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	
落花30日後頃	チウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	※薬害欄参照 水和硫黄剤 ベルコートフロアブル
落花40日後頃	ダコニール1000 (F:M05) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	
7月上旬	デランフロアブル (F:M09) 又はダコニール1000 (F:M05) 又はベルコートフロアブル (F:M07)	
7月中旬	デランフロアブル (F:M09) 又はダコニール1000 (F:M05)	
7月下旬	ダコニール1000 (F:M05) 又はベルコートフロアブル (F:M07)	
灰星病	[耕種的防除法] 1 樹上のミイラ果や被害枝を切り取って処分する。 2 春先にはできるだけ早く園地の乾燥を図り、伝染源となる子のう盤(キノコ)の発生を抑制する。 3 樹上の発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。	1 おうとう、すもも、あんずなど多くの果樹類に発生する。 2 多発すると薬剤だけでは防除しきれなくなるので、発病果の処分など耕種的な対策も併せて行う。 3 ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。 4 ロブラール水和剤とDMI剤は、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。
落花30日後頃	[薬剤による防除法] チウラム水和剤 (F:M03)	
落花40日後頃	ダコニール1000 (F:M05) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	
7月上旬	デランフロアブル (F:M09) 又はダコニール1000 (F:M05) 又はベルコートフロアブル (F:M07)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
7月中旬	デランフロアブル (F:M09) 又はダコニール1000 (F:M05)	
7月下旬	ダコニール1000 (F:M05) 又はベルコートフロアブル (F:M07)	[DMI剤] インダーフロアブル オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 アンビルフロアブル
8月上旬	ベルコートフロアブル (F:M07) 又はストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	
8月中旬 (あかつき収穫前)	ロブラール水和剤 (F:2) 又はDMI剤 (F:3)	※薬害欄参照 ストロビードライフロアブル ベルコートフロアブル ナリアWDG
8月下旬	ストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	
9月上旬 (川中島白桃収穫前)	ロブラール水和剤 (F:2) 又はDMI剤 (F:3)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
せん孔細菌病	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 風を強く受ける地帯で多発するので、防風網を設置するなどの防風対策も併せて行う。</p> <p>2 春型枝病斑は葉や果実への伝染源になるので、4月以降、見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑も重要な伝染源になるので、速やかに処分する。</p> <p>3 前年果実被害が多かった園地では、果実への感染を防ぐため有袋栽培とする。仕上げ摘果をできるだけ早く終わらせ、速やかに袋かけを行う。</p> <p>[薬剤による防除法]</p>	<p>1 薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を行う。</p> <p>2 防風網の設置や被害枝、被害果の除去などの耕種的な防除対策を徹底する。</p> <p>3 「落花30日後頃」～「落花40日後頃」にマイコシールド、スターナ水和剤、I C ジンク水和剤のいずれかを1～2回使用する。</p> <p>4 マイコシールドとスターナ水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれの薬剤を連続使用しない。</p> <p>5 翌年の一次伝染源となる春型枝病斑を減少させるため、「9月中旬(川中島白桃収穫後)」と「9月中旬散布の2週間後頃」の薬剤散布は必ず行う。</p>
開花直前	I C ボルドー412(F:M01)	
落花10日後頃	<p>アグリマイシン-100(F:41, 25)</p> <p>又はアグレプト水和剤(F:25)</p> <p>又はバリダシン液剤5(F:U18)</p>	<p>※薬害欄参照</p> <p>I C ボルドー412</p> <p>I C ジンク水和剤</p> <p>アグリマイシン-100</p> <p>アグレプト水和剤</p> <p>クプロシールド</p>
落花20日後頃	<p>マイコシールド(F:41)</p> <p>又はスターナ水和剤(F:31)</p> <p>又はI C ジンク水和剤(F:未設定)</p> <p>又は〔クプロシールド(M:01) + クレフノン(-)〕</p>	
落花30日後頃 ～落花40日後頃	<p>マイコシールド(F:41)</p> <p>又はスターナ水和剤(F:31)</p> <p>又はI C ジンク水和剤(F:未設定)</p>	
7月上旬	デランフロアブル(F:M09)	
7月中旬	デランフロアブル(F:M09)	
9月中旬(川中島白桃収穫後)	I C ボルドー412(F:M01)	
9月中旬散布の2週間後頃	I C ボルドー412(F:M01)	
白紋羽病 苗木植付け時	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>○苗木消毒</p> <p>トップジンM水和剤(F:1)</p>	<p>1 健全な苗木を選んで植え付ける。</p> <p>2 苗木の根部に付着している土を洗い流した後、根部を薬液に10分間浸漬する。処理後は、直ちに植え付ける。</p>

【農薬節減に係る情報(病害関係)】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 縮葉病対策として「発芽前」にキノンドー水和剤40を散布すると、この時期の黒星病対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 水和硫黄剤は、高温時(28℃以上)の散布で薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうや日本なし等に薬害を生じるおそれがある。
- 2 I C ボルドー412と、カネマイトフロアブル、ダニゲッターフロアブル、マイトコーネフロアブル及びダニサラバフロアブルは14日以内の近接散布をしない。
- 3 ベルクートフロアブルは、りんごの落花直後から落花後25日頃まではさび果を生じるおそれがある。また、西洋なしの「ル・レクチエ」ではさび果を生じる。
- 4 ストレプトマイシンを含む農薬がぶどうに飛散したことにより、果粒が小粒化した事例がある。
- 5 ストロビドドライフロアブルは、ぶどうの「ロザリオ・ピアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。また、日本なしでは、落花30日後頃まで薬害を生じるおそれがある。
- 6 ナリアWDGはなしの開花始めから落花20日後頃までの葉及び西洋なしの「ル・レクチエ」の果実に薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうの「サニールージュ」の葉に薬害を生じるおそれがある。
- 7 アグリマイシン-100とダニサラバフロアブルは同時に使用すると物理性が悪化する。
- 8 I C ジンク水和剤は高温時の散布で葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので注意する。
- 9 クプロシールドは葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので、薬害軽減のためクレフノン100倍を必ず加用する。散布後に大雨があるとクレフノンが流されて薬害軽減効果が低下するので注意する。

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
シンクイムシ類	[耕種的防除法] 1 幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。 2 ナシヒメシンクイの加害による新梢の芯折れは見つけ次第、切り取って処分する。 [薬剤による防除法]	1 「落花30日後頃」にスミチオン水和剤40を散布すると、この時期のクワコナカイガラムシ対策の防除剤は必要ない。 2 シンクイムシ類対策の「8月中旬」及び「8月下旬」の防除は、早・中生種では必要ない。
落花10日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 ※薬害欄参照 スミチオン水和剤40 モスピラン顆粒水溶剤
落花20日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
落花30日後頃	スミチオン水和剤40(I:1B) 又はオリオン水和剤40(I:1A)	
落花40日後頃	ダントツ水溶剤(I:4A)	
7月上旬	バイスロイドEW(I:3A) 又はイカズチWDG(I:3A)	
7月中旬	ジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコルフロアブル10(I:28)	
7月下旬	ダイアジノン水和剤34(I:1B) 又はモスピラン顆粒水溶剤(I:4A) 又はダントツ水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコルフロアブル10(I:28)	
8月上旬	ダイアジノン水和剤34(I:1B) 又はダントツ水溶剤(I:4A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はテルスターフロアブル(I:3A)	
8月中旬 (あかつき収穫前)	モスピラン顆粒水溶剤(I:4A)	
8月下旬	モスピラン顆粒水溶剤(I:4A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A)	
コンフューザーRによる主要害虫の防除	[薬剤による防除法] コンフューザーR(I:-)	1 成木、幼木、苗木にかかわらず園地全体に均一に取り付ける。ただし、園地の周辺部と、傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。 2 コンフューザーRの対象害虫はモモシンクイガ及びナシヒメシンクイである。 3 使用後は剪定時などに回収し、処分する。
モモハモグリガ	[薬剤による防除法] バイスロイドEW(I:3A) 又はイカズチWDG(I:3A)	1 多発園では、「9月上旬」にイカズチWDGも使用する。
7月中旬	ジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコルフロアブル10(I:28)	[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
7月下旬	モスピラン顆粒水溶剤(I:4A) 又はダントツ水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコルフロアブル10(I:28)	※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
9月上旬	イカズチWDG(I:3A)	
コスカシバ	[耕種的防除法] 生育期に枝幹部や地際部に樹脂(ヤニ)又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。 [薬剤による防除法] フェニックスフロアブル(I:28)	1 薬剤の散布や交信攪乱剤(スカシバコンL)の設置、幼虫の刺殺などの総合防除を行う。 2 開花前までにフェニックスフロアブルを樹幹部に、薬液が十分かかるように手散布する。 3 スカシバコンLは30a以上のまとまった面積で取り付けると効果的である。園地の周縁部には多めに取り付ける。また、傾斜のある園地では、傾斜の上部に多めに取り付ける。 4 スカシバコンLは毎年更新する。
開花前	フェニックスフロアブル(I:28)	5 生育期に枝幹部や地際部に虫糞の発生がみられる場合は、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。
5月中旬～下旬	スカシバコンL(I:-)	
生育期 (発生に応じて)	ロビンフッド(I:3A)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ハダニ類 落花10日前頃 7月上旬 ～7月下旬	[耕種的防除法] 不要な徒長枝は早めに切り取って処分する。 [薬剤による防除法] カネマイトフロアブル (I:20B) 又はダニゲッターフロアブル (I:23) 又はマイトコーネフロアブル (I:20D) 又はダニサラバフロアブル (I:25A)	1 発生状況に応じて防除剤を使用する。 2 ダニサラバフロアブルは7月上旬以降に使用する。 3 殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。 ※薬害欄参照 カネマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル マイトコーネフロアブル ダニサラバフロアブル
クワコナ カイガラムシ 落花30日後頃 7月下旬	[耕種的防除法] 粗皮削りやバンド巻きを行う。 [薬剤による防除法] オリオン水和剤40 (I:1A) ダイアジノン水和剤34 (I:1B)	1 りんご、なし、すもも、ぶどうなどにも発生する。老木や有袋栽培で被害が大きい。 2 薬剤散布は幹や支柱にも付着するようにしていねいに行う。
カメムシ類 落花30日後頃 落花40日後頃 7月上旬 7月中旬 7月下旬 8月上旬	[耕種的防除法] 1 春先までに、越冬場所(作業小屋や落葉の下など)に潜伏している成虫を捕まえて処分する。 2 5月末頃から8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。 3 ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕まえて処分する。 [薬剤による防除法] スミチオン水和剤40 (I:1B) ダントツ水溶剤 (I:4A) イカズチWDG (I:3A) ジノテフラン水溶剤 (I:4A) ダントツ水溶剤 (I:4A) ダントツ水溶剤 (I:4A) 又はジノテフラン水溶剤 (I:4A) 又はテルスターフロアブル (I:3A)	1 成虫の飛来状況に応じて、適宜防除する。 2 「落花30日後頃」にスミチオン水和剤40を散布すると、この時期のクワコナカイガラムシ対策の防除剤は必要ない。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 ※薬害欄参照 スミチオン水和剤40

【農薬節減に係る情報(虫害関係)】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 シンクイムシ類及びカメムシ類対策として「落花30日後頃」にスミチオン水和剤40を散布すると、この時期のクワコナカイガラムシ対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 スミチオン水和剤40は、5月中に使用すると薬害を生じるおそれがある。
- 2 カネマイトフロアブル、ダニゲッターフロアブル及びマイトコーネフロアブルは、I C ボルドー412とは14日以内の近接散布をしない。
- 3 ダニサラバフロアブルはアグリマイシン-100と同時に使用すると物理性が悪化する。また、I C ボルドー412と同時に使用あるいは14日以内の近接散布をしない。
- 4 モスピラン顆粒水溶剤は、ネクタリンでは、品種により葉に薬害を生じるおそれがある。また、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では葉に薬害を生じる。

なし

4 なし

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	希釈使用量	適用病害虫名																
					黒星病	黒斑病	胴枯病	輪紋病	赤星病	白紋羽病	傷口のゆ合肥進	シンクイムシ類	ハマキムシ類	クワコナカイガラムシ	アブラムシ類	ナシミハバチ	ナシキジラミ	カメムシ類	リンゴハダニ	ナミハダニ	
デランフロアブル	M09		ジチアノン	1000	○	○		◎													
ジマンダイセン水和剤	M03		マンゼブ	600	○																
ベルコート水和剤	M07		イミノクタジンアルベシル酸塩	1000	○	○		◎													
キャプレート水和剤	M04		キャプタン	600	○			◎													
	1	ベノミル																			
オキシラン水和剤	M04		キャプタン	500	○	○		◎													
	M01	有機銅																			
ベンレート水和剤	1		ベノミル	3000	○																
オーソサイド水和剤80	M04		キャプタン	800	○			○	○												
キノンドーフロアブル	M01		有機銅	1000	○	○															
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル	2000		○		◎													
ナリアWDG	11		ピラクロストロビン	2000		○		◎													
	7	ボスカリド																			
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル	500	○																
				1500																	
ポリオキシシンAL水和剤	19		ポリオキシシン複合体	1000		○															
DMI剤		3	ジフェノコナゾール	2000	○																
				4000																	
				2000																	
				2000																	
アンビルフロアブル	3		ヘキサコナゾール	1000	○			○													
トリフルミン水和剤	3		トリフルミゾール	3000	○			○													
トップジンMペースト	1		チオファネートメチル	原液				○	○												
バッチレート(塗布剤)	M01		有機銅	原液				○													
バシタック水和剤75	7		メプロニル	1000						☆											
リン有機剤		1B	P A P	800																	
				1000																	
ロイド剤		3A	ビフェントリン	1000																	
				1500																	
ネオニド剤		4A	ジノテフラン	2000																	
				2000																	
マシン油		-	マシン油	50																	
				50																	
サンマイト水和剤		21A	ピリダベン	1500																	
ダニゲッターフロアブル		23	スピロメシフェン	2000																○	
スターマイトフロアブル		25A	シエノピラフェン	2000																○	
ダニサラバフロアブル		25A	シフルメトフェン	1000																○	
マイトコーネフロアブル		20D	ビフェナゼート	1000																○	
カネマイトフロアブル		20B	アセキノシル	1000																○	
コンフューザーR		-	オリフルア	100本/10a																	
																					トートリルア
																					ピーチフルア

○：本指針で防除剤として適用するもの。

☆：びゃくしん類に対して使用。

輪紋病：◎は西洋なし、日本なしの両方、○は日本なしのみで防除効果が高い。

トップジンM水和剤の「白紋羽病」は「なし(休眠期)」、「なし(苗木)」での農薬登録。

ダイアジノン水和剤34のクワコナカイガラムシは「コナカイガラムシ類若齢幼虫」での農薬登録。

ハーベストオイル、ダニゲッターフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル、マイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブルは「ハダニ類」での農薬登録。

サンマイト水和剤のリンゴハダニは「ハダニ類(ミカンハダニを除く)」での農薬登録。

スピンドロン乳剤のリンゴハダニは「ハダニ類及びその越冬卵」での農薬登録。

コンフューザーRは「果樹類」での農薬登録。

コンフューザーRのシンクイムシ類は「モモシンクイガ」及び「ナシヒメシンクイ」、ハマキムシ類は「リンゴコカクモンハマキ」、「ミダレカクモンハマキ」及び「リンゴモンハマキ」での農薬登録。

(2) 防除方法

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒星病	[耕種的防除法] 1 発病枝は剪定時に切り取って処分する。 2 被害落葉は、かき集めて土中に埋めるなどの処分をする。 3 適正な肥培管理を行って新梢の二次伸長を防ぎ、新梢の秋期感染を防ぐ。 4 不要な徒長枝は伝染源となるので早めに切除する。	(西洋なし) 1 「フレミッシュ・ビューティ」では、「発芽7日後頃」にキノンドーフロアブル、「開花直前」にDMI剤を特別散布し、「落花10日後頃」にはDMI剤を選択する。また、例年発生が多い園地では、「落花10日後頃」にジマンダイセン水和剤も使用する。
発芽期	[薬剤による防除法] (日本なし) キノンドーフロアブル(F:M01)	(日本なし) 1 多発が懸念される場合は、「落花10日後頃」にDMI剤を選択する。また、「落花直後」と「落花20日後頃」にはトップジンM水和剤又はベンレート水和剤も使用する。
発芽7日後頃	(西洋なし) キノンドーフロアブル(F:M01)	
開花直前	(西洋なし・日本なし) DMI剤(F:3)	2 「8月上旬」以降、「八雲」、「幸水」、「多摩」などの早・中生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。
落花直後	(西洋なし) オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はDMI剤(F:3)	3 「8月上旬」までの発生が多い場合は、「8月中旬」と「8月下旬」にオーソサイド水和剤80を特別散布する。
	(日本なし) オーソサイド水和剤80(F:M04)	
落花10日後頃	(西洋なし・日本なし) オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はデランフロアブル(F:M09) 又はDMI剤(F:3)	[DMI剤] スコア顆粒水和剤 ラリー水和剤 アンビルフロアブル トリフミン水和剤
落花20日後頃	(西洋なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) (日本なし) オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はオキシラン水和剤(F:M04, M01)	※薬害欄参照 ジマンダイセン水和剤 スコア顆粒水和剤 ベルコート水和剤 キャブレート水和剤 トップジンM水和剤 ベンレート水和剤
落花30日後頃	(西洋なし) ベルコート水和剤(F:M07) 又はデランフロアブル(F:M09) (日本なし) ベルコート水和剤(F:M07) 又はデランフロアブル(F:M09) 又はオキシラン水和剤(F:M04, M01)	※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項欄参照
落花40日後頃	(西洋なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) 又はキャブレート水和剤(F:M04, 1)	ベンレート水和剤 キャブレート水和剤 トップジンM水和剤
7月上旬	(日本なし) ベルコート水和剤(F:M07) 又はオキシラン水和剤(F:M04, M01)	
7月中旬	(日本なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) 又はキャブレート水和剤(F:M04, 1)	
8月上旬	(日本なし) ベルコート水和剤(F:M07) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)	
8月中旬	(日本なし) オーソサイド水和剤80(F:M04)	
8月下旬	(日本なし) オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はキャブレート水和剤(F:M04, 1)	

なし

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒斑病	[耕種的防除法] 1 発病枝は剪定時に切除し処分する。 2 徒長枝は発生源となりやすいので、不要なものは夏のうちに剪去する。 3 発病果は見つけ次第摘み取って、土中に埋めるなど処分する。 [薬剤による防除法] (西洋なし) キノンドーフロアブル (F:M01)	(西洋なし) 1 「ゼネラル・レクラーク」と「ル・レクチエ」に特異的に発生する。 2 「ゼネラル・レクラーク」などの園地で発生がみられる場合は、「発芽7日後頃」にキノンドーフロアブルを特別散布する。 3 「7月下旬」以降、「プレコース」や「ゼネラル・レクラーク」などの早・中生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。 4 ストロビリン単剤のストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。 5 「落花直後」にスコア顆粒水和剤2,000倍を散布すると、この時期の黒星病対策の防除剤は必要ない。
発芽7日後頃	(西洋なし) スコア顆粒水和剤 (F:3)	
落花10日後頃	(西洋なし) デランフロアブル (F:M09)	
落花20日後頃	(西洋なし・日本なし) オキシラン水和剤 (F:M04, M01)	
落花30日後頃	(西洋なし) ベルクート水和剤 (F:M07) 又はデランフロアブル (F:M09) (日本なし) ベルクート水和剤 (F:M07) 又はデランフロアブル (F:M09) 又はオキシラン水和剤 (F:M04, M01)	(日本なし) 1 高温・多湿の場合、「八雲」や「幸水」などでは多発が懸念されるので、「8月中旬」にストロビードライフロアブル、ナリアWDG、ポリオキシシNAL水和剤のいずれかを特別散布する。
落花40日後頃	(西洋なし) オキシラン水和剤 (F:M04, M01)	※薬害欄参照
7月上旬	(西洋なし) ベルクート水和剤 (F:M07) (日本なし) ベルクート水和剤 (F:M07) 又はオキシラン水和剤 (F:M04, M01)	ベルクート水和剤 ストロビードライフロアブル ナリアWDG スコア顆粒水和剤
7月中旬	(西洋なし・日本なし) オキシラン水和剤 (F:M04, M01)	
7月下旬	(西洋なし) ベルクート水和剤 (F:M07)	
8月上旬	(西洋なし) オキシラン水和剤 (F:M04, M01) 又はベルクート水和剤 (F:M07) (日本なし) ベルクート水和剤 (F:M07)	
8月中旬	(西洋なし) ストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) (日本なし) ストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7) 又はポリオキシシNAL水和剤 (F:19)	
9月中旬	(西洋なし) ストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
輪紋病	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 発病枝は伝染源となるので見つけ次第、切り取って処分する。</p> <p>2 樹勢が衰弱すると枝幹が被害を受けやすくなるので、肥培管理に気をつけて樹勢を適正に保つ。</p> <p>[薬剤による防除法] (西洋なし・日本なし) トップジンMペースト(F:1)</p>	<p>(西洋なし・日本なし)</p> <p>1 5月下旬頃から、枝幹部のいぼ病斑から分生子が飛散し始めるので、飛散前にいぼ病斑を削り取ってトップジンMペーストを塗布する。</p> <p>(西洋なし)</p> <p>1 6～7月の幼果期は最も感染しやすいので、10日間隔の薬剤散布を守る。なお、散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布する。</p>
落花10日後頃	(西洋なし) オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はデランフロアブル(F:M09)	2 「ゼネラル・レクラーク」や「ラ・フランス」などの中・晩生種では、「8月最下旬」と「9月中旬」も重要な防除時期になるので、必ず薬剤散布を行う。
落花20日後頃	(西洋なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01)	3 「7月下旬」以降、「プレコース」や「ゼネラル・レクラーク」などの早・中生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。
	(日本なし) オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はオキシラン水和剤(F:M04, M01)	4 ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の佐田レオス
落花30日後頃	(西洋なし) ベルクート水和剤(F:M07) 又はデランフロアブル(F:M09)	(日本なし)
	(日本なし) ベルクート水和剤(F:M07) 又はデランフロアブル(F:M09) 又はオキシラン水和剤(F:M04, M01)	1 「8月上旬」に「八雲」などの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。
落花40日後頃	(西洋なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) 又はキャブレート水和剤(F:M04, 1)	※薬害欄参照 ベルクート水和剤 キャブレート水和剤 ストロビードライフロアブル トップジンM水和剤 ナリアWDG
7月上旬	(西洋なし) ベルクート水和剤(F:M07)	※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項欄参照 キャブレート水和剤 トップジンM水和剤
	(日本なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) 又はベルクート水和剤(F:M07)	
7月中旬	(西洋なし・日本なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) 又はキャブレート水和剤(F:M04, 1)	
7月下旬	(西洋なし) ベルクート水和剤(F:M07)	
8月上旬	(西洋なし) オキシラン水和剤(F:M04, M01) 又はベルクート水和剤(F:M07) 又はトップジンM水和剤(F:1)	
	(日本なし) ベルクート水和剤(F:M07) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)	
8月中旬	(西洋なし) ストロビードライフロアブル(F:11) 又はナリアWDG(F:11, 7)	
8月最下旬	(西洋なし) キャブレート水和剤(F:M04, 1) 又はトップジンM水和剤(F:1)	
9月中旬	(西洋なし) ストロビードライフロアブル(F:11) 又はナリアWDG(F:11, 7)	

なし

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
胴枯病 (西洋なし)	[耕種的防除法] 樹勢の弱い樹や徒長気味の枝で発病が多いので適正な肥培管理を行う。	1 主幹や主枝など大枝の病患部は見つけ次第、削り取って、トップジンMペースト又はバッチレートに塗布する。 2 被害枝は剪去する。小黒点病斑も見つけ次第、枝ごと切り取って処分し、切り口にバッチレートを塗布する。 ※薬害欄参照 トップジンM水和剤
	[薬剤による防除法] トップジンMペースト(F:1) 又はバッチレート(F:M01)	
	落花20日後頃 トップジンM水和剤(F:1)	
	落花30日後頃 トップジンM水和剤(F:1)	
落花40日後頃 トップジンM水和剤(F:1)	※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項欄参照 トップジンM水和剤	
赤星病 (日本なし)	[耕種的防除法] 中間寄主となるびやくしん類は園地周辺に植え付けない。	1 びやくしん類には冬孢子堆膨潤前の4月下旬から5月上旬にバンタック水和剤75を散布する。 [DMI剤] スコア顆粒水和剤 ラリー水和剤 アンピルフロアブル トリフミン水和剤 ※薬害欄参照 スコア顆粒水和剤
	[薬剤による防除法] DMI剤(F:3)	
	開花直前 オーンサイド水和剤80(F:M04)	
	落花直後 オーンサイド水和剤80(F:M04) 又はDMI剤(F:3)	
落花10日後頃 オーンサイド水和剤80(F:M04) 又はDMI剤(F:3)	※薬害欄参照 スコア顆粒水和剤	
白紋羽病 苗木植付け時	[薬剤による防除法] ○苗木消毒 トップジンM水和剤(F:1)	1 健全な苗木を選んで植え付ける。 2 植え付け前に、根部に付着している土を洗い流した後、根部を薬液に10分間浸漬する。処理後は、直ちに植え付ける。 ※ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項欄参照 トップジンM水和剤

【農薬節減に係る情報(病害関係)】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 黒斑病対策として「落花直後」にスコア顆粒水和剤2,000倍を散布すると、この時期の黒星病対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 ベルクート水和剤は、西洋なしの「ル・レクチェ」にさび果を生じる。また、りんごの芽出し2週間すぎから落花後25日頃までは、さび果を生じるおそれがある。おうとうの着色始期から中期に、着色障害が生じるおそれがある。
- 2 スコア顆粒水和剤は、西洋なしの「ル・レクチェ」の果実に薬斑を生じるおそれがある。
- 3 ジマンダイセン水和剤は日本なしに薬害を生じる。
- 4 キャプレート水和剤は、6月中旬頃までは日本なしに薬害を生じる。
- 5 ストロビードライフロアブルは、日本なしに落花30日後頃まで薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうの「ロザリオ・ピアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。
- 6 ナリアWDGは、なしの開花始めから落花20日後頃までの葉及び西洋なしの「ル・レクチェ」の果実に薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうの「サニールージュ」の葉に薬害を生じるおそれがある。
- 7 トップジンM水和剤又はベンレート水和剤は、エルサン水和剤40との組み合わせで薬害を生じるおそれがある。

【ベノミル含有剤及びチオファネートメチル含有剤の注意事項】

- 1 トップジンM水和剤を使用する場合はキャプレート水和剤及びベンレート水和剤を使用しない。
- 2 キャプレート水和剤及びベンレート水和剤を使用する場合はトップジンM水和剤を使用しない。

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
シンクイムシ類	[耕種的防除法] 幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。	(西洋なし) 1 「7月下旬」以降、「プレコース」や「ゼネラル・レクラーク」などの早・中生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。
落花40日後頃	[薬剤による防除法] (西洋なし・日本なし) ジノテフラン水溶剤(I:4A)	(日本なし) 1 「8月中旬」以降、「八雲」などの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。
7月上旬	(西洋なし・日本なし) ダイアジノン水和剤34(I:1B) 又はイカズチWDG(I:3A) 又はエクシレルSE(I:28)	(西洋なし・日本なし) 1 テルスター水和剤は天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、連用しない。
7月中旬	(西洋なし) テルスター水和剤(I:3A) 又はダイアジノン水和剤34(I:1B)	[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
7月下旬	(西洋なし) イカズチWDG(I:3A)	
8月上旬	(西洋なし・日本なし) ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
8月中旬	(西洋なし・日本なし) テルスター水和剤(I:3A)	
8月最下旬	(西洋なし) ジノテフラン水溶剤(I:4A)	
ナシキジラミ	[薬剤による防除法] エルサン水和剤40(I:1B)	※薬害欄参照
落花直後	エルサン水和剤40(I:1B)	エルサン水和剤40
落花10日後頃	エルサン水和剤40(I:1B)	
アブラムシ類	[薬剤による防除法] (西洋なし・日本なし) ダイアジノン水和剤34(I:1B)	(日本なし) 1 「落花直後」にダイアジノン水和剤34を散布すると、この時期のナシキジラミ及びナシミハバチ対策の防除剤は必要ない。
発芽期	(西洋なし) エルサン水和剤40(I:1B)	(西洋なし・日本なし) 1 「落花10日後頃」にダイアジノン水和剤34を散布すると、この時期のナシキジラミ及びナシミハバチ対策の防除剤は必要ない。
落花直後	(日本なし) エルサン水和剤40(I:1B) 又はダイアジノン水和剤34(I:1B)	
落花10日後頃	(西洋なし・日本なし) エルサン水和剤40(I:1B) 又はダイアジノン水和剤34(I:1B)	
落花20日後頃	(西洋なし・日本なし) ダイアジノン水和剤34(I:1B)	※薬害欄参照 エルサン水和剤40
ハマキムシ類	[薬剤による防除法] ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
発芽期	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
7月上旬	ダイアジノン水和剤34(I:1B) 又はエクシレルSE(I:28)	
ナシミハバチ	[耕種的防除法] 被害果は落花25日後頃までに集めて水漬けた後、処分する。	※薬害欄参照
落花直後	[薬剤による防除法] エルサン水和剤40(I:1B)	エルサン水和剤40
落花10日後頃	エルサン水和剤40(I:1B)	
コンフューザーRによる主要害虫の防除	[薬剤による防除法] コンフューザーR(I:-)	1 成木、幼木、苗木にかかわらず園地全体に均一に取り付ける。ただし、園地の周辺部と、傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。 2 コンフューザーRの対象害虫はナシヒメシンクイ、リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキ及びモモシンクイガであり、トビハマキには効果が低いので注意する。 3 使用後は剪定時などに回収し、処分する。
5月中旬		

なし

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
クワコナ カイガラムシ 8月上旬	[耕種的防除法] 粗皮削り、バンド巻き、成虫及び卵の捕殺など総合防除に努める。 [薬剤による防除法] ダイアジノン水和剤34(I:1B)	1 薬剤は幹や支柱にもよく付着するように散布する。
カメムシ類 落花30日後頃	[耕種的防除法] 1 春までに越冬場所（作業小屋や落葉の下など）に潜伏している成虫を捕殺する。 2 5月末頃から8月上旬まで断続的に葉に産卵するので、卵塊やふ化幼虫は見つけ次第、つぶして処分する。 [薬剤による防除法] (西洋なし・日本なし) イカズチWDG(I:3A)	(西洋なし・日本なし) 1 成虫の飛来状況に応じて、適宜防除する。 2 イカズチWDG及びテルスター水和剤は天敵類に強い影響があり、多用するとハダニ類やカイガラムシ類が異常に発生するおそれがあるので、これらの害虫の発生動向に注意する。 3 落花30日後頃に発生がみられた場合は、イカズチWDGを特別散布する。
落花40日後頃	(西洋なし・日本なし) ジノテフラン水溶剤(I:4A)	[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
7月上旬	(西洋なし・日本なし) イカズチWDG(I:3A)	
7月中旬	(西洋なし・日本なし) テルスター水和剤(I:3A)	
7月下旬	(西洋なし) イカズチWDG(I:3A)	
8月中旬	(西洋なし・日本なし) テルスター水和剤(I:3A)	
8月最下旬	(西洋なし) ジノテフラン水溶剤(I:4A)	
ハダニ類 発芽前	[薬剤による防除法] マシン油乳剤(I:-)	1 リンゴハダニの多い園地では、「発芽前」にマシン油乳剤を特別散布する。
落花直後 7月上旬～ 8月上旬	サンマイト水和剤(I:21A) 又はダニゲッターフロアブル(I:23) 又はスターマイトフロアブル(I:25A) 又はダニサラバフロアブル(I:25A) 又はマイトコーネフロアブル(I:20D) 又はカネマイトフロアブル(I:20B)	2 「落花直後」及び「7月上旬」から「8月上旬」までは、発生状況に応じて防除剤を使用する。 3 ダニゲッターフロアブル及びスターマイトフロアブルは7月中旬以降に使用する。 4 リンゴハダニの多い園地ではマイトコーネフロアブル及びカネマイトフロアブルを使用しない。 5 ナミハダニの多い園地では、サンマイト水和剤を使用しない。 6 殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。 [マシン油乳剤] ハーベストオイル スピンドロン乳剤 ※薬害欄参照 サンマイト水和剤 ダニゲッターフロアブル スターマイトフロアブル マイトコーネフロアブル カネマイトフロアブル

【農薬節減に係る情報（虫害関係）】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 日本なしのアブラムシ類対策として「落花直後」又は「落花10日後頃」にダイアジノン水和剤34を散布すると、これらの時期のナシキジラミ及びナシミハバチ対策の防除剤は必要ない。
- 2 西洋なしのアブラムシ類対策として「落花10日後頃」にダイアジノン水和剤34を散布すると、この時期のナシキジラミ及びナシミハバチ対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 マイトコーネフロアブルは、6月以前に薬害を生じる。
- 2 エルサン水和剤40は、トップジンM水和剤及びベンレート水和剤との組み合わせで、薬害を生じるおそれがある。
- 3 カネマイトフロアブルは、6月下旬まで葉に薬害を生じる。
- 4 ダニゲッターフロアブルは新梢伸長期の日本なし「長十郎」に使用すると、新葉に薬害を生じるおそれがある。また、なしではこの時期に有機リン剤との同時散布及び10日以内の近接散布で新葉に薬害を生じるおそれがある。
- 5 スターマイトフロアブルは日本なし「八雲」で7月上旬まで葉に薬害を生じる。

5 うめ・あんず

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	登録作物	希釈用量数	適用病害虫名											
						黒星病	縮葉病	環紋葉枯病	かいよう病	灰星病	切り口及び傷口のゆ合促進	カイガラムシ類	アブラムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ		
石灰硫黄合剤	M02	UN	石灰硫黄合剤	落葉果樹	7		○					○					
ロブラル水和剤	2		イプロジオン	うめ	1500			○									
				あんず				○									
オーソサイド水和剤80	M04		キャブタン	小粒核果類	800	○											
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル	小粒核果類	1500			○									
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル	うめ	2000												
				小粒核果類 (うめ、すももを除く)				○									
オーシャイン水和剤	3		オキシポコナゾールフマル酸塩	うめ	3000	○				○							
				小粒核果類 (うめを除く)													
イオウフロアブル	M02		硫黄	うめ	500	○											
				あんず													
I Cボルドー66D	M01		塩基性硫酸銅	うめ	50					○							
				あんず													
マイコシールド	41		オキシテトラサイクリン	うめ	1500					○							
				あんず													
トップジンMベースト	1		チオファネートメチル	小粒核果類	原液						○						
アブロードフロアブル		16	ブプロフェジン	うめ	1000								○				
				あんず													
ダイアジノン水和剤34		1B	ダイアジノン	小粒核果類 (すももを除く)	1000									○	○		
モスピラン顆粒水溶剤		4A	アセタミプリド	うめ	4000										○		
				小粒核果類 (うめ、すももを除く)													
BT剤	ファイブスター顆粒水和剤	11A	BT(生菌)	果樹類	2000											○	
				果樹類 (りんごを除く)												○	
ロビンフッド		3A	フェンプロパトリン	うめ													○
				果樹類													
ガットキラー乳剤		1B	MEP	うめ	100												○
				小粒核果類 (うめ、すももを除く)													
スカシバコンL		—	シナンセルア	果樹類	40~100本/10a												○

○：本指針で防除剤として適用するもの。

石灰硫黄合剤はメーカーによって農薬の使用基準が異なる。

アブロードフロアブルのカイガラムシ類は「カイガラムシ類幼虫」での農薬登録。

ロビンフッドは「うめ」及び「果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、オリーブを除く)」での農薬登録。ロビンフッドのコスカシバは「スカシバ類」での農薬登録。

小粒核果類：あんず、うめ、すもも(プルーン、プラム)

(2) 防除方法

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
縮葉病 発芽前	[耕種的防除法] 発病葉は見つけ次第、摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] (うめ) － (あんず) 石灰硫黄合剤 (F:M02, I:UN)	1 あんずでは、「発芽前」に石灰硫黄合剤を散布すると、この時期の黒星病対策の防除剤は必要ない。
黒星病 発芽前	[耕種的防除法] 病斑の多い枝は剪定の際に切り取り処分する。 [薬剤による防除法] －	※薬害欄参照 イオウフロアブル
落花直後	(うめ・あんず) オーシャイン水和剤 (F:3)	
落花10日後頃	(うめ・あんず) オーソサイド水和剤80 (F:M04)	
落花20日後頃	(うめ・あんず) オーソサイド水和剤80 (F:M04)	
落花30日後頃	(うめ・あんず) オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はイオウフロアブル (F:M02)	
6月中旬～下旬	(うめ・あんず) イオウフロアブル (F:M02)	
灰星病 落花直後	[耕種的防除法] 1 被害枝は見つけ次第、切り取って処分する。 2 花腐れや発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] (うめ・あんず) オーシャイン水和剤 (F:3)	1 あんずでは灰星病が発生しやすいので「7月上旬～中旬」にオーシャイン水和剤を特別散布する。 2 「収穫後（7月中旬～下旬）」にあんずの灰星病対策でロブラール水和剤を散布すると、この時期のあんずの環紋葉枯病対策の防除剤は必要ない。
7月上旬～中旬	(あんず) オーシャイン水和剤 (F:3)	
収穫後 (7月中旬～下旬)	(あんず) ロブラール水和剤 (F:2)	
環紋葉枯病 収穫後 (7月中旬～下旬)	[薬剤による防除法] (うめ) トップジンM水和剤 (F:1) 又はストロビードライフフロアブル (F:11) 又はロブラール水和剤 (F:2) (あんず) トップジンM水和剤 (F:1) 又はストロビードライフフロアブル (F:11)	※薬害欄参照 ストロビードライフフロアブル
かいよう病 葉芽発芽前 (開花前頃)	[耕種的防除法] 1 越冬病斑を形成した枝は切り取って処分する。 2 風当たりの強いところでは防風対策を強化する。 [薬剤による防除法] (うめ・あんず) I C ボルドー66D (F:M01)	1 発生の多い園地では「葉芽発芽前（開花前頃）」にI C ボルドー66Dを特別散布する。 2 「落花10日後頃」及び「落花20日後頃」の防除も重要であるので、マイコシールドも使用する。
落花10日後頃	(うめ・あんず) マイコシールド (F:41)	
落花20日後頃	(うめ・あんず) マイコシールド (F:41)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
変葉病	[耕種的防除法] 1 発病部位は見つけ次第、摘み取って処分する。 2 発生の認められた園地では、中間寄主のヤマカシユウを見つ け次第、園地の周辺から除去する。	

【農薬節減に係る情報（病害関係）】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 うめのカイガラムシ類対策として「発芽前」に石灰硫黄合剤を散布すると、この時期のうめの黒星病及び縮葉病対策の防除剤は必要ない。
- 2 あんずの縮葉病対策として「発芽前」に石灰硫黄合剤を散布すると、この時期のあんずの黒星病対策の防除剤は必要ない。
- 3 あんずの灰星病対策として「収穫後（7月中旬～下旬）」にロブラール水和剤を散布すると、この時期のあんずの環紋葉枯病対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 イオウフロアブルは、高温時（28℃以上）の散布で薬害を生じるおそれがある。また、ぶどう、日本なし等に薬害を生じるおそれがある。
- 2 ストロビードライフロアブルは、ぶどうの「ロザリオ・ピアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。また、日本なしでは、落花30日後頃までの使用で薬害を生じる。

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
カイガラムシ類 発芽前	[薬剤による防除法] (うめ・あんず) 石灰硫黄合剤 (F:M02, I:UN)	1 発生の多い樹では、「発芽前」の薬剤散布前にワイヤーブラシ等で越冬成虫を落とす。 2 うめでは、「発芽前」に石灰硫黄合剤を散布すると、この時期の黒星病及び縮葉病対策の防除剤は必要ない。 3 発生の多い樹では、「収穫後の8月上旬～中旬」の幼虫ふ化最盛期にアプロードフロアブルを特別散布する。
落花20日後頃	(うめ・あんず) —	
収穫後 (8月上旬～中旬の幼虫ふ化最盛期)	(うめ・あんず) アプロードフロアブル (I:16)	
アブラムシ類 落花直後	[薬剤による防除法] (うめ・あんず) モスピラン顆粒水溶剤 (I:4A)	1 「落花20日後頃」にダイアジノン水和剤34を散布すると、この時期のカイガラムシ類対策の防除剤は必要ない。 2 モスピラン顆粒水溶剤は、訪花昆虫に悪影響がある。 ※被害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
落花20日後頃	(うめ・あんず) ダイアジノン水和剤34 (I:1B)	
ハマキムシ類 落花10日後頃	[薬剤による防除法] (うめ・あんず) ダイアジノン水和剤34 (I:1B) 又はB T 剤 (I:11A)	1 「落花20日後頃」にダイアジノン水和剤34を散布すると、この時期のカイガラムシ類対策の防除剤は必要ない。 [B T 剤] ファイブスター顆粒水和剤 パイオマックスDF
落花20日後頃	(うめ・あんず) ダイアジノン水和剤34 (I:1B)	
コスシバ 休眠期(落葉後～催芽前)	[耕種的防除法] 生育期に枝幹部や地際部に樹脂(ヤニ)又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。 [薬剤による防除法] (うめ・あんず) ガットキラー乳剤 (I:1B)	1 薬剤の散布や交信攪乱剤(スカシバコンL)の設置、幼虫の刺殺などの総合防除を行う。 2 「休眠期(落葉後～催芽前)」にガットキラー乳剤を枝幹部と地際部に、薬液が十分かかるように手散布する。 3 スカシバコンLは30a以上のまとまった面積で取り付けると効果的である。園地の周縁部には多めに取り付ける。また、傾斜のある園地では、傾斜の上部に多めに取り付ける。 4 スカシバコンLは毎年更新する。 5 生育期に枝幹部や地際部に虫糞の発生がみられる場合は、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。
5月中旬～下旬	(うめ・あんず) スカシバコンL (I:-)	
生育期 (発生に応じて)	(うめ・あんず) ロビンフッド (I:3A)	

【農薬節減に係る情報(虫害関係)】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除にあたっては以下の内容を確認する。

- 1 うめのカイガラムシ類対策として「発芽前」に石灰硫黄合剤を散布すると、この時期のうめの黒星病及び縮葉病対策の防除剤は必要ない。
- 2 アブラムシ類及びハマキムシ類対策として「落花20日後頃」にダイアジノン水和剤34を散布すると、この時期のカイガラムシ類対策の防除剤は必要ない。

【薬害】

- 1 モスピラン顆粒水溶剤は、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では薬に薬害を生じる。また、ネクタリンでは、品種により薬に薬害を生じるおそれがある。

6 すもも（日本すもも・プルーン）

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	適用病害虫名													
				ふくろみ病	黒星病	灰星病	黒斑病	炭疽病	切り口及び傷口のゆ合促進	ウメシロカイガラムシ	アブラムシ類	シンクイムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ	カメムシ類	ハダニ類	
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル		○												
オーソサイド水和剤80	M04		キャプタン		○												
チウラム水和剤	チオノックフロアブル	M03	チウラム	○				○									
	トレノックスフロアブル	M03	チウラム	○				○									
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル					○									
ナリアWDG	11		ピラクロストロビン														
	7		ボスカリド		○	○											
アミスター10フロアブル	11		アゾキシストロビン					○									
ベルコートフロアブル	M07		イミノクタジンアルベシル酸塩					○									
ロブラール水和剤	2		イプロジオン					○									
パスワード顆粒水和剤	17		フェンヘキサミド					○									
DMI剤	インダーフロアブル	3	フェンブコナゾール					○									
	オーシャイン水和剤	3	オキサポコナゾールフマル酸塩		○	○											
	オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール		○	○											
	サンリット水和剤	3	シメコナゾール					○									
	トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール					○									
	スコア顆粒水和剤	3	ジフェノコナゾール					○									
	アンビルフロアブル	3	ヘキサコナゾール					○									
抗生物質剤	アグリマイシン-100	41	オキシテトラサイクリン					○									
		25	ストレプトマイシン硫酸塩						○								
	アグレプト水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩					○									
	マイシン20水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩					○									
	バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン					○									
ICボルドー412	M01		塩基性硫酸銅					○									
トップジンMペースト	1		チオファネートメチル						○								
石灰硫黄合剤		UN	石灰硫黄合剤							○							
マシリン	トモノールS	—	マシリン油							○							
	スプレーオイル	—	マシリン油							○							
アプロードフロアブル		16	ブプロフェジン							○							
リン有機剤	ダイアジノン水和剤34		1B	ダイアジノン							○	○	○				
	ガットキラー乳剤		1B	MEP										○			
ロイドレス剤	アディオフロアブル		3A	ペルメトリン							○						
	イカズチWDG		3A	シベルメトリン								○					
	テルスターフロアブル		3A	ビフェントリン								○					
	ロビンフッド		3A	フェンプロパトリン										○			
ネオニコチン剤	スタークル顆粒水溶剤		4A	ジノテフラン							○				○		
	アルバリン顆粒水溶剤		4A	ジノテフラン							○				○		
	ダントツ水溶剤		4A	クロチアニジン							○				○		
	モスピラン顆粒水溶剤		4A	アセタミプリド							○	○					
サムコルフロアブル10		28	クロラントラニリプロール									○					
BT剤	バイオマックスDF		11A	BT(生菌)											○		
	ファイブスター顆粒水和剤		11A	BT(生菌)											○		

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名													
				ふくろみ病	黒星病	灰星病	黒斑病	炭疽病	切り口及び傷口のゆ合肥促進	ウメシロカイガラムシ類	アブラムシ類	シンクイムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ	カメムシ類	ハダニ類	
ナシヒメコン		—	オリフルア									○					
コンフェューザーR		—	オリフルア									○	○				
		—	トートリルア														
		—	ピーチフルア														
スカシバコンL		—	シナンセルア											○			
サンマイト水和剤		21A	ピリダベン														○
マイトコーネフロアブル		20D	ピフェナゼート														○
カネマイトフロアブル		20B	アセキノシル														○
ダニサラバフロアブル		25A	シフルメトフェン														○
ダニゲッターフロアブル		23	スピロメシフェン														○

トップジンM水和剤、オーソサイド水和剤80、サンリット水和剤及びトップジンMペーストは「小粒核果類」、オーシャイン水和剤及びオンリーワンフロアブルは「小粒核果類(うめを除く)」での農薬登録。

石灰硫黄合剤は「落葉果樹」、テルスターフロアブル、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、マイトコーネフロアブル、ダニサラバフロアブル及びダニゲッターフロアブルは「小粒核果類」、バイオマックスDFは「果樹類(りんごを除く)」、ファイブスター顆粒水和剤及びスカシバコンLは「果樹類」での農薬登録。

石灰硫黄合剤、トモノールS及びスプレーオイルは「カイガラムシ類」での農薬登録。

アブロードフロアブルのウメシロカイガラムシは「カイガラムシ類幼虫」での農薬登録。

ロビンフッドのコスカシバは「スカシバ類」での農薬登録。

ナシヒメコンのシンクイムシ類は「スモモヒメシンクイ」での農薬登録。

コンフェューザーRは「果樹類」での農薬登録。

コンフェューザーRのシンクイムシ類は「モモシンクイガ」及び「ナシヒメシンクイ」、ハマキムシ類は「リンゴコカクモンハマキ」、「ミダレカクモンハマキ」及び「リンゴモンハマキ」での農薬登録。

(2) 防除方法

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒星病 落花直後～ 6月下旬	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 枝病斑は重要な伝染源になるので、枝ごと切り取って処分する。</p> <p>2 発病葉、発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>トップジンM水和剤(F:1) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04) 又はナリアWDG(F:11,7) 又はオーシャイン水和剤(F:3) 又はオンリーワンフロアブル(F:3)</p>	<p>1 もも、うめ、あんずにも発生する。</p> <p>2 多雨の条件下で多発する。中でも幼果期は感染が多くなるので、薬剤散布はていねいに行う。</p> <p>3 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>4 トップジンM水和剤は1,500倍、オーソサイド水和剤80は800倍で使用する。</p> <p>※薬害欄参照 ナリアWDG</p>
灰星病 落花直後 及び6月中旬 ～収穫期	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 被害枝は見つけ次第、剪去して処分する。</p> <p>2 春先にはできるだけ早く園地を乾燥させ、伝染源となる子のう盤（キノコ）の発生を抑制する。</p> <p>3 樹上の発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ロブラール水和剤(F:2) 又はナリアWDG(F:11,7) 又はベルクートフロアブル(F:M07) 又はパスワード顆粒水和剤(F:17) 又はアミスター10フロアブル(F:11) 又はDMI剤(F:3)</p>	<p>1 おうとう、もも、あんずなど多くの果樹類に発生する。</p> <p>2 多発すると薬剤だけでは防除しきれなくなるので、発病果の処分など耕種的な対策も併せて行う。</p> <p>3 果実では収穫1か月前頃～収穫前に発生しやすいので、この時期の防除を徹底する。</p> <p>4 ロブラール水和剤とDMI剤は、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。</p> <p>5 ストロビルリン単剤のストロビードライフフロアブルとアミスター10フロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。</p> <p>6 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>7 ロブラール水和剤及びパスワード顆粒水和剤は1,500倍で使用する。</p> <p>[DMI剤] インダーフロアブル オーシャイン水和剤 オンリーワンフロアブル サンリット水和剤 トリフミン水和剤 スコア顆粒水和剤 アンピルフロアブル</p> <p>※薬害欄参照 ナリアWDG ベルクートフロアブル パスワード顆粒水和剤 アミスター10フロアブル</p>
黒斑病 開花直前 落花直後～ 6月中旬 収穫後	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 風を強く受ける地帯で多発するので、防風網を設置する。</p> <p>2 春型枝病斑は葉や果実への伝染源になるので、見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。夏型枝病斑も重要な伝染源になるので、速やかに処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>I C ボルドー412(F:M01)</p> <p>抗生物質剤</p> <p>I C ボルドー412(F:M01)</p>	<p>1 薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を行う。</p> <p>2 防風網の設置や被害枝、被害果の除去などの耕種的な防除対策を徹底する。</p> <p>3 「開花直前」及び「収穫後」にI C ボルドー412を特別散布する。</p> <p>4 「落花直後」から「6月中旬」までの時期に、抗生物質剤を2～3回散布する。</p> <p>5 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>[抗生物質剤] アグリマイシン-100(F:41,25) アグレプト水和剤(F:25) マイシン20水和剤(F:25) マイコシルド(F:41) バリダシン液剤5(F:U18)</p> <p>※薬害欄参照 I C ボルドー412 アグリマイシン-100 アグレプト水和剤 マイシン20水和剤</p>

すもも（日本すもも・プルーン）

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ふくろみ病 発芽前	[耕種的防除法] 発病果は摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] チウラム水和剤 (F:M03)	[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル ※薬害欄参照 チウラム水和剤
炭疽病 生育期	[耕種的防除法] 発病果は摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] ストロビードライフロアブル (F:11) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	1 ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブルとアミスター10フロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。 [チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル ※薬害欄参照 ストロビードライフロアブル チウラム水和剤

【薬害】
<p>1 ナリアWDGは、なしの開花始めから落花20日後頃までの葉及び西洋なしの「ル・レクチェ」の果実に薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうの「サニールージュ」の葉に薬害を生じるおそれがある。</p> <p>2 ベルコートフロアブルは、西洋なしの「ル・レクチェ」にさび果を生じる。また、りんごの芽出し2週間すぎから落花後25日頃までは、さび果を生じるおそれがある。おうとうの着色始期から中期に、着色障害が生じるおそれがある。</p> <p>3 パスワード顆粒水和剤は散布によって、「スチューベン」や「バッファロー」、「ポートランド」などのぶどうの一部品種で、軽微な薬害を生じることがある。</p> <p>4 ストレプトマイシンを含む薬剤がぶどうに飛散したことにより、果粒が小粒化した事例がある。</p> <p>5 アミスター10フロアブルは、りんごの「あかね」、「彩香」などの一部の品種に薬害を生じる。</p> <p>6 ICボルドー412は、開花後から8月末までは薬害を生じるおそれがあるので使用しない。また、ICボルドー412とマイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル、スターマイトフロアブル及びダニゲッターフロアブルは14日以内の近接散布をしない。</p> <p>7 ICボルドー412は、ダニサラバフロアブルとの同時使用又は14日以内の近接散布をしない。また、アグリマイシン100はダニサラバフロアブルと同時使用すると物理性が悪化する。</p> <p>8 ストロビードライフロアブルは、ぶどうの「ロザリオ・ビアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。また、日本なしに、落花30日後頃までの使用で薬害を生じるおそれがある。</p> <p>9 チウラム水和剤は、石灰硫黄合剤と組み合わせない。</p>

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ウメシロ カイガラムシ 発芽前	[薬剤による防除法] 石灰硫黄合剤 (I:UN) 又はトモノールS (I:-) 又はスプレーオイル (I:-)	1 発生の多い樹では、「発芽前」の薬剤散布前にワイヤーブラシ等で越冬成虫を落とす。 2 石灰硫黄合剤は7倍、トモノールS及びスプレーオイルは50倍で使用する。
5月下旬 (幼虫ふ化最盛期)	アブロードフロアブル (I:16)	
アブラムシ類 落花直後以降 発生に応じて	[薬剤による防除法] ダイアジノン水和剤34 (I:1B) 又はアディオフロアブル (I:3A) 又はモスピラン顆粒水溶剤 (I:4A) 又はジノテフラン水溶剤 (I:4A) 又はダントツ水溶剤 (I:4A)	1 発生状況に応じて防除剤を使用する。 2 いずれの剤も訪花昆虫に悪影響がある。 3 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」及び「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 4 ダイアジノン水和剤34は1,000倍、モスピラン顆粒水溶剤は4,000倍で使用する。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 ※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
シンクイムシ類 (大石早生すももの) 落花20日後頃	[薬剤による防除法] ダイアジノン水和剤34 (I:1B)	1 モスピラン顆粒水溶剤は4,000倍で使用する。
落花30日後頃	ダイアジノン水和剤34 (I:1B)	※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
落花40日後頃	ダイアジノン水和剤34 (I:1B)	
落花50日後頃	サムコルフロアブル10 (I:28)	
7月上旬	サムコルフロアブル10 (I:28) 又はイカズチWDG (I:3A)	
7月中旬 (大石早生すもも収穫前)	ジノテフラン水溶剤 (I:4A)	[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
7月下旬	モスピラン顆粒水溶剤 (I:4A)	
8月上旬 (ソルダム収穫前)	テルスターフロアブル (I:3A)	
8月中旬	モスピラン顆粒水溶剤 (I:4A)	
8月下旬	テルスターフロアブル (I:3A)	
9月上旬	イカズチWDG (I:3A)	
ナシヒメコンによる スモヒメ シンクイの防除 4月下旬 ～5月上旬	[薬剤による防除法] ナシヒメコン (I:-)	1 ナシヒメコンを10a当たり100本設置する。目通りの高さに7割、残りを樹の上部に取り付ける。 2 30a以上のまとまった面積で取り付けたと効果的である。 3 園地の周辺部と傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。ただし、急傾斜の園地では使用しない。 4 ナシヒメコンはモモシンクイガには効果がないのでシンクイムシ類対策の殺虫剤は必ず使用する。 5 ナシヒメコンは1年ごとに付け替え、剪定時などに回収し、処分する。
ハマキムシ類 開花直前及び 7月上旬 (幼虫発生期)	[薬剤による防除法] バイオマックスDF (I:11A) 又はファイブスター顆粒水和剤 (I:11A) 又はダイアジノン水和剤34 (I:1B)	1 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。 2 ダイアジノン水和剤34は1,000倍、バイオマックスDFは2,000倍で使用する。
コンフューザーRによる 主要害虫の防除 5月中旬	[薬剤による防除法] コンフューザーR (I:-)	1 コンフューザーRは10a当たり100本の割合で取り付ける。 2 成木、幼木、苗木にかかわらず園地全体に均一に取り付ける。ただし、園地の周辺部と、傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。 3 コンフューザーRの対象害虫はモモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ及びリンゴモンハマキであり、トビハマキには効果が低いので注意する。 4 使用後は剪定時などに回収し、処分する。

すもも（日本すもも・プルーン）

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
カメムシ類 5月下旬以降発生に応じて	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 春先までに越冬場所（作業小屋や落葉の下など）に潜伏している成虫を捕まえて処分する。</p> <p>2 5月末頃から8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。</p> <p>3 ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕まえて処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はダントツ水溶剤(I:4A)</p>	<p>1 成虫の飛来状況に応じて、適宜防除する。</p> <p>2 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」及び「使用回数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>3 ダントツ水溶剤は4,000倍で使用する。</p> <p>[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤</p>
コスカシバ 休眠期（落葉後～萌芽前）	<p>[耕種的防除法]</p> <p>生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ガットキラー乳剤(I:1B)</p>	<p>1 薬剤の散布や交信攪乱剤（スカシバコンL）の設置、幼虫の刺殺などの総合防除を行う。</p> <p>2 「休眠期（落葉後～萌芽前）」にガットキラー乳剤を枝幹部と地際部に、薬液が十分かかるように手散布する。</p> <p>3 スカシバコンLは30 a以上のまとまった面積で取り付けると効果的である。園地の周縁部には多めに取り付ける。また、傾斜のある園地では、傾斜の上部に多めに取り付ける。</p> <p>4 スカシバコンLは毎年更新する。</p> <p>5 生育期に枝幹部や地際部に虫糞の発生がみられる場合は、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。</p>
5月中旬～下旬（成虫発生前）	スカシバコンL(I:-)	
生育期（発生に応じて）	ロビンフッド(I:3A)	
ハダニ類 6月中旬以降	<p>[耕種的防除法]</p> <p>不要な徒長枝は早めに切り取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>サンマイト水和剤(I:21A) 又はマイトコーネフロアブル(I:20D) 又はカネマイトフロアブル(I:20B) 又はダニサラバフロアブル(I:25A) 又はダニゲッターフロアブル(I:23)</p>	<p>1 発生状況に応じて防除剤を使用する。</p> <p>2 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>3 殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。</p> <p>4 サンマイト水和剤は1,500倍、マイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル及びダニサラバフロアブルは1,000倍で使用する。</p> <p>※薬害欄参照 マイトコーネフロアブル カネマイトフロアブル ダニサラバフロアブル ダニゲッターフロアブル</p>

【薬害】

- 1 モスピラン顆粒水溶剤は、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では葉に薬害を生じる。また、ネクタリンでは、品種により葉に薬害を生じるおそれがある。
- 2 マイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル及びダニゲッターフロアブルは、6月以前に使用するとなしに薬害を生じる。また、ICボルドー412と14日以内の近接散布をしない。
- 3 ダニサラバフロアブルは、アグリマイシン-100と同時使用すると物理性が悪化する。また、ICボルドー412との同時使用又は14日以内の近接散布をしない。

7 ネクタリン

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	適用病害虫名・使用目的												
				縮葉病	黒星病	灰星病	せん孔細菌病	切り口及び傷口のゆ合促進	シンクイムシ類	モモハモグリガ	クワコナカイガラムシ	カメムシ類	コスカシバ	ハダニ類	銅水和剤による葉害の軽減	
石灰硫黄合剤	M02		石灰硫黄合剤	○												
チウラム水和剤	チオノックフロアブル	M03	チウラム	○	○	○										
	トレノックスフロアブル	M03	チウラム	○	○	○										
DMI剤	インダーフロアブル	3	フェンプロナゾール			○										
	アンビルフロアブル	3	ヘキサコナゾール			○										
	オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール			○										
	スコア顆粒水和剤	3	ジフェノコナゾール			○										
ロブラール水和剤	2	イプロジオン			○											
ストロビードライフロアブル	11	クレゾキシムメチル			○											
ナリアWDG		11	ピラクロストロピン			○										
		7	ボスカリド			○										
ダコニール1000	M05		T P N		○	○										
デランフロアブル	M09		ジチアノン		○	○	○									
ベルコートフロアブル	M07		イミノクタジナルベシル酸塩		○	○										
硫黄水和剤	イオウフロアブル	M02	硫黄		○											
	サルファーゾル	M02	硫黄		○											
ICボルドー412	M01		塩基性硫酸銅				○									
クプロシールド	M01		塩基性硫酸銅				○									
ICジンク水和剤	※		酸化亜鉛				○									
マイコシールド	41		オキシテトラサイクリン				○									
スターナ水和剤	31		オキシリニック酸				○									
トップジンMペースト	1		チオファネートメチル				○									
フェニックスフロアブル		28	フルベンジアミド											○		
ダイアジノン水和剤34		1B	ダイアジノン					○		○						
オリオン水和剤40		1A	アラニカルブ					○		○						
ネオニコチノイド剤	モスピラン顆粒水溶剤		4A	アセタミプリド					○	○						
	ダントツ水溶剤		4A	クロチアニジン					○	○		○				
	スタークル顆粒水溶剤		4A	ジノテフラン					○	○		○				
	アルバリン顆粒水溶剤		4A	ジノテフラン					○	○		○				
ピレスロイド剤	イカズチWDG		3A	シベルメトリン					○	○		○				
	テルスターフロアブル		3A	ピフェントリン					○			○				
	ロビンフッド		3A	フェンプロパトリン										○		
エクシレルSE		28	シアントラニプロロール					○	○							
サムコルフロアブル10		28	クロラントラニプロロール					○	○							
コンフューザーR		—	オリフルア — トートリルア — ビーチフルア						○							
スカシバコンL		—	シナンセルア											○		
カネマイトフロアブル		20B	アセキノシル												○	
マイトコーネフロアブル		20D	ビフェナゼート												○	
ダニサラバフロアブル		25A	シフルメトフェン												○	
ダニゲッターフロアブル		23	スピロメシフェン												○	
クレフノン	—		炭酸カルシウム													○

※：未設定

トップジンMペーストは、「果樹類（もも、りんご、なし、かき、マルメロ、かりん、いちじく、かんきつ、おうとう、小粒核果類、びわ、キウイフルーツ、ぶどう、くり、オリーブを除く）」での農薬登録。

石灰硫黄合剤は「落葉果樹」での農薬登録。

ICジンク水和剤は「もも類」での農薬登録。

ダイアジノン水和剤34のクワコナカイガラムシは「クワコナカイガラムシ若齢幼虫」での農薬登録。

オリオン水和剤40のクワコナカイガラムシは「カイガラムシ類」での農薬登録。

ロビンフッドは「果樹類（かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く）」での農薬登録。 ロビンフッドのコスカシバは「スカシバ類」での農薬登録。

コンフューザーR及びスカシバコンLは「果樹類」での農薬登録。

コンフューザーRのシンクイムシ類は「モモシンクイガ」及び「ナシヒメシンクイ」での農薬登録。

クレフノンは「核果類（うめ、すももを除く）」での農薬登録。

(2) 防除方法

病害の部

病虫害名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
縮葉病	[耕種的防除法] 発病葉は見つけ次第、摘み取って処分する。	1 発芽前は防除の基本であるので、ていねいに薬剤を散布する。 2 石灰硫黄合剤は7倍で使用する。 [チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
	[薬剤による防除法] チウラム水和剤 (F:M03) 又は石灰硫黄合剤 (F:M02)	
黒星病	[耕種的防除法] 1 枝病斑は重要な伝染源になるので、枝ごと切り取って処分する。 2 発病葉、発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] チウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	1 もも、うめ、あんずにも発生する。 2 多雨の条件下で多発する。中でも「落花10日後頃」～「落花30日後頃」の幼果期は感染が多くなるので、薬剤散布はていねいに行う。 3 サルファーゾルは500倍、デランフロアブルは600倍、ベルコートフロアブルは2,000倍で使用する。 [チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル [水和硫黄剤] イオウフロアブル サルファーゾル ※薬害欄参照 水和硫黄剤 ベルコートフロアブル
落花10日後頃	チウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	
落花20日後頃	チウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	
落花30日後頃	チウラム水和剤 (F:M03) 又は水和硫黄剤 (F:M02)	
落花40日後頃	ダコニール1000 (F:M05) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	
7月上旬	デランフロアブル (F:M09) 又はベルコートフロアブル (F:M07)	
7月中旬	デランフロアブル (F:M09) 又はダコニール1000 (F:M05)	
7月下旬	ベルコートフロアブル (F:M07)	
灰星病	[耕種的防除法] 1 樹上のミイラ果や被害枝を切り取って処分する。 2 春先にはできるだけ早く園地の乾燥を図り、伝染源となる子のう盤 (キノコ) の発生を抑制する。 3 樹上の発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。 [薬剤による防除法] チウラム水和剤 (F:M03)	1 おうとう、すもも、あんずなど多くの果樹類に発生する。 2 多発すると薬剤だけでは防除しきれなくなるので、発病果の処分など耕種的な対策も併せて行う。 3 ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。 4 ロブラール水和剤とDMI剤は、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。 5 ベルコートフロアブルは2,000倍、ロブラール水和剤は1,500倍で使用する。 [チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル [DMI剤] インダーフロアブル アンビルフロアブル オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 ※薬害欄参照 ベルコートフロアブル ストロビードライフロアブル ナリアWDG
落花30日後頃	チウラム水和剤 (F:M03)	
落花40日後頃	ダコニール1000 (F:M05) 又はチウラム水和剤 (F:M03)	
7月上旬	デランフロアブル (F:M09) 又はベルコートフロアブル (F:M07)	
7月中旬	デランフロアブル (F:M09) 又はダコニール1000 (F:M05)	
7月下旬	ベルコートフロアブル (F:M07)	
8月上旬	ストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	
8月中旬	ロブラール水和剤 (F:2) 又はDMI剤 (F:3)	
8月下旬	ストロビードライフロアブル (F:11) 又はナリアWDG (F:11, 7)	
9月上旬	ロブラール水和剤 (F:2) 又はDMI剤 (F:3)	

病虫害名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
せん孔細菌病	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 風を強く受ける地帯で多発するので、防風網を設置するなどの防風対策も併せて行う。</p> <p>2 春型枝病斑は葉や果実への伝染源になるので、4月以降、見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑も重要な伝染源になるので、速やかに処分する。</p> <p>3 前年果実被害が多かった園地では、果実への感染を防ぐため有袋栽培とする。仕上げ摘果をできるだけ早く終わらせ、速やかに袋かけを行う。</p> <p>[薬剤による防除法]</p>	<p>1 薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を行う。</p> <p>2 防風網の設置や被害枝、被害果の除去などの耕種的な防除対策を徹底する。</p> <p>3 「落花30日後頃」～「落花40日後頃」にマイコシールド、スターナ水和剤、I C ジンク水和剤のいずれかを1～2回使用する。</p> <p>4 マイコシールドとスターナ水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、同一薬剤を連続使用しない。</p> <p>5 翌年の一次伝染源となる春型枝病斑を減少させるため、「9月中旬（収穫後）」と「9月中旬散布の2週間後頃」の薬剤散布は必ず行う。</p> <p>6 デランフロアブルは600倍、I C ボルドー412は30倍で使用する。</p> <p>※薬害欄参照 I C ボルドー412 I C ジンク水和剤 クプロシールド</p>
開花直前	I C ボルドー412(F:M01)	
落花10日後頃	マイコシールド(F:41) 又はスターナ水和剤(F:31)	
落花20日後頃	マイコシールド(F:41) 又はスターナ水和剤(F:31) 又はI C ジンク水和剤(F:未設定) 又は [クプロシールド (M:01) +クレフノン(-)]	
落花30日後頃～ 落花40日後頃	マイコシールド(F:41) 又はスターナ水和剤(F:31) 又はI C ジンク水和剤(F:未設定)	
7月上旬	デランフロアブル(F:M09)	
7月中旬	デランフロアブル(F:M09)	
9月中旬 (収穫後)	I C ボルドー412(F:M01)	
9月中旬散布の 2週間後頃	I C ボルドー412(F:M01)	

【薬害】
<p>1 水和硫黄剤は、高温時（28℃以上）の散布で薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうや日本なし等に薬害を生じるおそれがある。</p> <p>2 I C ボルドー412と、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニサラバフロアブル及びダニゲッターフロアブルは14日以内の近接散布をしない。</p> <p>3 ベルクートフロアブルは、りんごの芽出し2週間すぎから落花後25日頃まではさび果を生じるおそれがある。また、西洋なしの「ル・レクチエ」では、さび果を生じる。</p> <p>4 ストロビードライフロアブルは、ぶどうの「ロザリオ・ピアンコ」並びにおとうに薬害を生じる。また、日本なしでは、落花30日後頃まで薬害を生じるおそれがある。</p> <p>5 ナリアWDGは、なしの開花始めから落花20日後頃までの葉及び西洋なしの「ル・レクチエ」の果実に薬害のおそれがある。また、ぶどうの「サニールージュ」の葉に薬害を生じるおそれがある。</p> <p>6 I C ジンク水和剤は高温時の散布で葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので注意する。</p> <p>7 クプロシールドは葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので、薬害軽減のためクレフノン100倍を必ず加用する。散布後に大雨があるとクレフノンが流されて薬害軽減効果が低下するので注意する。</p>

害虫の部

病虫害名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
シンクイムシ類	[耕種の防除法] 1 幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に浸けて処分する。 2 ナシヒメシンクイの加害による新梢の芯折れは見つけ次第、切り取って処分する。 [薬剤による防除法]	1 ダントツ水溶剤は2,000倍、エクシレルSEは5,000倍で使用する。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
落花10日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
落花20日後頃	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	
落花30日後頃	オリオン水和剤40(I:1A)	
落花40日後頃	ダントツ水溶剤(I:4A)	
7月上旬	イカズチWDG(I:3A)	
7月中旬	ジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコフロアブル10(I:28)	
7月下旬	ダイアジノン水和剤34(I:1B) 又はモスピラン顆粒水溶剤(I:4A) 又はダントツ水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコフロアブル10(I:28)	
8月上旬	ダントツ水溶剤(I:4A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はテルスターフロアブル(I:3A)	
8月中旬	モスピラン顆粒水溶剤(I:4A)	
8月下旬	モスピラン顆粒水溶剤(I:4A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A)	
コンフューザーRによる主要害虫の防除	[薬剤による防除法] コンフューザーR(I:-)	1 コンフューザーRは10a当たり100本の割合で取り付ける。 2 成木、幼木、苗木にかかわらず園地全体に均一に取り付ける。ただし、園地の周辺部と、傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。 3 コンフューザーRの対象害虫はモモシンクイガ及びナシヒメシンクイである。 4 使用後は剪定時などに回収し、処分する。
モモハモグリガ	[薬剤による防除法]	1 多発園では「9月上旬」にイカズチWDGも使用する。 2 ダントツ水溶剤は2,000倍、エクシレルSEは5,000倍で使用する。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 ※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
7月上旬	イカズチWDG(I:3A)	
7月中旬	ジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコフロアブル10(I:28)	
7月下旬	モスピラン顆粒水溶剤(I:4A) 又はダントツ水溶剤(I:4A) 又はエクシレルSE(I:28) 又はサムコフロアブル10(I:28)	
9月上旬	イカズチWDG(I:3A)	
カメムシ類	[耕種の防除法] 1 春先までに越冬場所(作業小屋や落葉の下など)に潜伏している成虫を捕まえて処分する。 2 5月末頃から8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。 3 ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕まえて処分する。 [薬剤による防除法]	1 成虫の飛来状況に応じて、適宜防除する。 2 ダントツ水溶剤は2,000倍で使用する。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
落花40日後頃	ダントツ水溶剤(I:4A)	1 りんご、なし、すもも、ぶどうなどにも発生する。老木や有袋栽培で被害が大きい。 2 薬剤散布は幹や支柱に付着するようにていねいに行う。 3 ダイアジノン水和剤34は1,000倍で使用する。
7月上旬	イカズチWDG(I:3A)	
7月中旬	ジノテフラン水溶剤(I:4A)	
7月下旬	ダントツ水溶剤(I:4A)	
8月上旬	ダントツ水溶剤(I:4A) 又はジノテフラン水溶剤(I:4A) 又はテルスターフロアブル(I:3A)	
クワコナ カイガラムシ	[耕種の防除法] 粗皮削りやバンド巻きを行う。 [薬剤による防除法]	1 りんご、なし、すもも、ぶどうなどにも発生する。老木や有袋栽培で被害が大きい。 2 薬剤散布は幹や支柱に付着するようにていねいに行う。 3 ダイアジノン水和剤34は1,000倍で使用する。
落花30日後頃	オリオン水和剤40(I:1A)	
7月下旬	ダイアジノン水和剤34(I:1B)	

病虫害名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
コスカシバ	[耕種的防除法] 生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。	1 薬剤の散布や交信攪乱剤（スカシバコンL）の設置、幼虫の刺殺などの総合防除を行う。 2 開花前までにフェニックスフロアブル500倍を樹幹部に、薬液が十分かかるように手散布する。 3 スカシバコンLは30 a以上のまとまった面積で取り付けたと効果的である。園地の周縁部には多めに取り付ける。傾斜のある園地では、傾斜の上部に多めに取り付ける。 4 スカシバコンLは毎年更新する。 5 生育期に枝幹部や地際部に虫糞の発生がみられる場合は、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。
開花前	[薬剤による防除法] フェニックスフロアブル(I:28)	
5月中旬～下旬	スカシバコンL(I:-)	
生育期 (発生に応じて)	ロビンフッド(I:3A)	
ハダニ類	[耕種的防除法] 不要な徒長枝は早めに切り取って処分する。 [薬剤による防除法] カネマイトフロアブル(I:20B) 又はマイトコーネフロアブル(I:20D) 又はダニサラバフロアブル(I:25A) 又はダニゲッターフロアブル(I:23)	1 発生状況に応じて防除剤を使用する。 2 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。 3 殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。 4 カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル及びダニサラバフロアブルは1,000倍で使用使用する。 ※薬害欄参照 カネマイトフロアブル マイトコーネフロアブル ダニサラバフロアブル ダニゲッターフロアブル
6月中旬以降発生に応じて		
【薬害】		
1 カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニサラバフロアブル及びダニゲッターフロアブルは、I Cボルドー412と14日以内の近接散布をしない。 2 モスピラン顆粒水溶剤は、ネクタリンでは、品種により葉に薬害を生じるおそれがある。また、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では葉に薬害を生じる。		

8 ブルーベリー

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コ ー ド	I R A C コ ー ド	有効成分	適用病害虫名				
				灰 色 か び 病	葉 枯 病 バ ル デ ン シ ア	カ ミ ズ イ ガ キ ラ カ ム シ	ケ ム シ 類	シ オ ウ ト ウ ジ ウ ヨ ウ バ エ
オーソサイド水和剤80	M04		キャブタン	○				
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル	○				
インダーフロアブル	3		フェンプロコナゾール	○				
ベンレート水和剤	1		ベノミル		○			
ラビサンスプレー		-	マシン油			○		
スプレーオイル		-	マシン油			○		
ファイブスター顆粒水和剤		11A	B T (生菌)				○	
バイオマックスDF		11A	B T (生菌)				○	
ダントツ水溶剤		4A	クロチアニジン				○	
フェニックスフロアブル		28	フルベンジアミド				○	
エクシレルSE		28	シアントラニリプロール				○	○
テッパン液剤		28	シクラニリプロール					○
アディオフロアブル		3A	ペルメトリン					○
ディアナWDG		5	スピネトラム					○
デリゲートWDG		5	スピネトラム					○
モスピラン顆粒水溶剤		4A	アセタミプリド					○

ケムシ類：チョウ目のうち、カレハガ科、シャチホコガ科、ドクガ科、ヒトリガ科、マダラガ科、ヤガ科、ヤマムユガ科に含まれる昆虫の幼虫で、毛が生えているもの。

ラビサンスプレーのミズキカタカイガラムシは、「カイガラムシ類」での農薬登録。

ファイブスター顆粒水和剤は「果樹類」、バイオマックスDFは「果樹類（りんごを除く）」での農薬登録。

【薬害】

1 オーソサイド水和剤80は果実肥大期以降の散布では果実に汚れを生じるおそれがある。

2 ストロビードライフロアブルは、ぶどうの「ロザリオ・ピアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。また、日本なしでは、落花30日後頃までの使用で薬害を生じる。

3 モスピラン顆粒水溶剤は、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では薬に薬害を生じる。また、ネクタリンでは、品種により薬に薬害を生じるおそれがある。

(2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
灰色かび病 発生初期	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 風通しの良い樹形に整える。 2 発病部位はできるだけ早く除去し、土中に埋める。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はストロビードライフロアブル(F:11) 又はインダーフロアブル(F:3)</p>	<p>1 ストロビードライフロアブルは薬剤耐性発達の懸念があるので、連続使用しない。</p> <p>※薬害欄参照 オーソサイド水和剤80 ストロビードライフロアブル</p>
バルデンシア 葉枯病 発生初期	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 5～6月にかけて不要なひこばえを数回剪去する。 2 発病葉や被害落葉は園地外に持ち出し処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ベンレート水和剤(F:1)</p>	
ミズキカタ カイガラムシ 発芽前	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>ラビサンスプレー(I:-) 又はスプレーオイル(I:-)</p>	<p>1 「発芽前」にラビサンスプレー又はスプレーオイルを地際部も含めて樹全体に、薬液が十分かかるように散布する。</p>
ケムシ類 幼虫発生初期	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 卵塊を見つけ次第除去し、園地外で処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ファイブスター顆粒水和剤(I:11A) 又はバイオマックスDF(I:11A) 又はダントツ水溶剤(I:4A) 又はフェニックスフロアブル(I:28) 又はエクシレルSE(I:28)</p>	
オウトウショウ ジョウバエ 7月初め～ 収穫直前	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 被害果は速やかに処分し、密度の低下を図る。 2 園地の清掃を行う。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>エクシレルSE(I:28) 又はテッパン液剤(I:28) 又はアディオフロアブル(I:3A) 又はディアナWDG(I:5) 又はデリゲートWDG(I:5) 又はモスピラン顆粒水溶剤(I:4A)</p>	<p>※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤</p>

くろふさすぐり

9 くろふさすぐり（カシス）

(1) 掲載農薬

農薬名	I R A C コ ー ド	有効成分	適用 害虫名
			ス グ リ コ ス カ シ バ
サムコルフロアブル10	28	クロラントラニリプロール	○

サムコルフロアブル10は「ふさすぐり」での農薬登録。

(2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
スグリコスカシバ 成虫発生初期 (6月上旬)	[耕種的防除法] 被害枝は見つけ次第、切り取って処分する。 [薬剤による防除法] サムコルフロアブル10(I:28)	

10 かき

(1) 掲載農薬一覧

農薬名	I R A C コ ー ド	有効成分	適用害虫名	
			アカザキミクウダマ	
アタブロンSC	15	クロルフルアズロン	○	
ピレスロイ	バイスロイドEW	3A	シフルトリン	○
	テルスター水和剤	3A	ビフェントリン	○
	ロディー水和剤	3A	フェンプロパトリン	○
	アグロスリン水和剤	3A	シベルメトリン	○
ネオニコチ	モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	○
	ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	○
	スタークル顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	○
	アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	○
テッパン液剤	28	シクラニリプロール	○	
シンピ	ディアナWDG	5	スピネトラム	○
	デリゲートWDG	5	スピネトラム	○

栽培面積が少なく県内での試験が困難であるので、登録剤の一部を示した。

アグロスリン水和剤、モスピラン顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、テッパン液剤、ディアナWDG及びデリゲートWDGは「アザミウマ類」での農薬登録。

(2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
カキクダアザミウマ 展葉期、落花直後、 落花20日後頃及び 落花30日後頃	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 発生程度が低い場合は被害葉(巻葉)を摘み取って処分する。</p> <p>2 枝幹の粗皮の隙間も越冬場所になるので、冬期に粗皮を削り取り処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>アタブロンSC (I:15) 又はバイスロイドEW (I:3A) 又はテルスター水和剤 (I:3A) 又はロディー水和剤 (I:3A) 又はアグロスリン水和剤 (I:3A) 又はモスピラン顆粒水溶剤 (I:4A) 又はダントツ水溶剤 (I:4A) 又はジノテフラン水溶剤 (I:4A) 又はテッパン液剤 (I:28) 又はスピノシン剤 (I:5)</p>	<p>[ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤</p> <p>[スピノシン剤] ディアナWDG デリゲートWDG</p> <p>※ 薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤</p>

【薬害】

- 1 モスピラン顆粒水溶剤は、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では葉に薬害を生じる。また、ネクタリンでは、品種により葉に薬害を生じるおそれがある。

その他

11 その他

果樹全般(りんご、おうとう、もも、うめ、すももなど)

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
キクイムシ類	[耕種的防除法] 樹勢を衰弱させないような栽培管理を行い、回復の見込みのない樹はすぐに伐採して処分する。	1 アンブロシヤ・ビートルと呼ばれる材中に入るキクイムシ類の寄生を受けた樹は発芽が遅れ、展葉期ころから生育の衰えが見られるようになり、新梢の萎凋や枝枯れ症状が見られる。このような症状の樹の枝幹部には、直径1～1.5mmの孔が多数開いている。 2 本類の寄生は一見健全そうでも、倒伏による根の切断、土壌の過湿や激しい乾燥、紋羽病、ネズミによる食害、枝幹病害虫、スコアリングなどによって衰弱した場合に成虫が飛来し、産卵される。寄生された樹はアンブロシヤ菌によってさらに衰弱して成虫を誘引し、ついには枯死に至る。したがって、常時園内を見回り、早期に衰弱樹を発見し、原因を取り除く必要がある。